

327-536

貿易製產品
共進會講演集

44. 8. 16

緒言

今春神戸市に於て開催したる貿易製産品共進會は、其準備時日の極めて短かざりしに拘はらず、比較的多数の出品を得たり、是れ其企劃の適當なるものありしに由るものとす。其審査に關しても亦農商務大臣は、特に審査官を派遣し以て本會に對し有力なる援助を與へられたり。而して審査長及審査官諸氏は何れも斯業に關して、造詣深く且つ多大なる經驗を有せらるるを以て、一日本會は審査長及審査官諸氏と謀るに、出品人并關係當業者のために概評的講演の開催を以てす、此は曾て先例なきことなれども、一般關係者に利益を與ふること尠からざるべきに依り、直に審査長及審査官諸氏の快諾を得たり、依て四月十六日十七日の二回會場裏善光寺に於て講演會を開催することとせり。惟ふに其講演は何れも時弊に適中し、當業者の

指針となすべきもの多かりしも、會場の狹隘なりし爲め親しく聽講すること能はざりしもの決して尠しとせず、依て茲に之を輯録して剗剗に附することとなしぬ。

終に臨み審査事務の極めて多忙なりしに拘はらず、講演の爲めに貴重の時間を割かれたる、審査長及審査官諸氏に對し深厚の謝意を表す。

明治四十四年五月

編纂者識

貿易製産品共進會講演集目次

一、窯業製品の將來に於ける貿易に就て

東京高等工業學校教授

平野耕輔君……………一

一、歐米輸出罐詰に就て

農商務技師

柁川溫君……………三三

一、雜貨貿易に就て

農商務技師

野間譽雄君……………六〇

一、我化學工業の狀態及化學製品の貿易に就て

農商務技師

莊司市太郎君……………七八

一、發明と補習教育

東京府立工藝學校校長

今 景 彦君……………一四

一、歐米に於て如何に日本品が模造されつゝあるか

農 商 務 技 師

松 倉 順 一君……………一三〇

目 次 終

窯業製品の將來に於ける貿易に就て

東京高等工業學校教授
審 査 官

平 野 耕 輔 君

私の講話の題は茲に掲げてあるやうな窯業製品の將來に於ける貿易に就てと云ふ少し長たらしいのであります。此の窯業製品と云ふことはお分りになつて居る方もあるかも知れませぬが、一般に餘りまだ使はれて居りませぬので、或はお分りにならぬかとも思ひますから、一寸此の窯業製品と云ふことを初に申し上げたいと思ひます。此の窯業製品と云ひますのは此度の共進會の第二部の中に入れてあります。瀬戸物類、硝子、七寶、磁瑯、セメント、煉瓦、坩堝と云ふやうな、總て窯を主として使つて焼き又は熔かして拵へる所の製品を纏めて申しますのでござります。是等の製品は御承知の通り或一二の物は輸入致しますものもありませんけれども、多くは内地の需要を充實したる上に外國に向つて輸出してをる居所の品物であつて、所謂輸出工業品と云ふものである。即ち將來此の窯業製品

二
の發展と云ふことは何うしても輸出を増進しなければ、是れより以上に進むことの出来ないと云ふ工業品の種類に屬して居るのである、只今數字的に詳しく申し上げることは出来ませぬが、約壹千萬圓以上の輸出を持つて居りますので、工産物としては先づ織物に亞ぎましての重要な輸出工産品の中に這入つて居るのでござります、燐寸は大凡壹千萬圓以上あるやうであります、殆んど此の燐寸と價額に於ては伯仲の間にありまして、尙ほ其製造原料は殆んど内地産でありますから日本の國家經濟上から云ひましても大切な品物の中に算へて居るのでござります、それでありますからして、詰り將來に於ける是等の品物の輸出と云ふことに就ては、或は今日の狀態を持續して行くべきものであるか、又今よりも尙ほ多くの發展を圖ることが出来るものであるかと云ふことに就て考へなければならぬと思ひます、即ち將來に於ける貿易に就ては、當業者は固より御自分のことでありますから、常に御研究になつて居ること、思ひます、私の如き從來貿易或は商賈と云ふやうなことを自分でやつて見たことのない、又製造の方から申しましても、自分で工場を經營して製造をやつたと云ふこと

もない、さう云ふ商工共に無經驗なる者が、御經驗のある方々の前に於て、此の將來に於ける貿易と云ふことに就て、今日お話をするのは少しく厚かましい次第であります、私は先程新田商工課長から御紹介のありました如く、此の黨業は自分の専門でありまして、直接間接に於て多少の注意は拂つて居ります、近く去年は偶々機會がありまして、滿洲方面から北清を通り南京の博覽會を見て参りました、其旅行は僅かの時日でありましたが、見て参りましたことに就て大いに感じたる所もありました、それが爲に幾らか私の意見を申し上げ、さうして皆さんに將來のことを一ツ御相談して見たいと云ふ考でござります、何うか其のお積りでお聴きを願ひます。

併し今日はまだ野間審査官もお話になるので、私には約一時間と云ふ時間の制限がござります、又此の黨業製品と云ふことは先程申しました通りに餘程種類が多いのでござりますから、之れを一々詳細にお話をすると云ふことは勿論時間も許しませぬし、又餘り長いと云ふと御退屈であるかも知れませぬから、最も簡短に大要を申し上げやうと思ふ、併ながら此の黨業製品と云ふ大體に就て之

れを一纏めにしてお話をすると云ふことは少しく困難でござります、それは製品の種類が澤山にありまして、又其の需要の關係等が餘程異つて居ります、でありますからして一ツツに就て申し上げることに致します。

四

先づ第一に陶磁器と云ふことから始めます、陶磁器は即ち瀬戸物、焼物でござりますして、此業に御關係の方が今日お居で、ござりますか何うかは知りませぬが、此の焼物は何れの共進會、博覽會に於きましても、織物と共に會場の華としてあるもので、一番に人の目を惹くもの、やうに思つて居ります、で此の品物は御承知の通り美術的裝飾品、詰り飾りにするもの、それから實用的のもの、それから工業用に使ひまする所のもの、とがござります、其の製品は頗る多種であり、又其の用途も非常に廣いのであります、それでござりますから、是れも亦一概にお話をすると云ふことは困難であります、先程申す通り之れを一々お話をすること、は出来ませぬから、先づ概括して申し上げる次第でござります、今日は先づ内地の需要に對することは別にして置きまして、主として輸出と云ふことに就て申し上げます、陶磁器は御承知の如く日本で製産します所の約半分以上は外國に

輸出をして居ります、是は最近に於きまして約六百万圓くらゐの輸出額がありますのでござります、其中此の輸出に就て研究すると云ふことに於ては、何所々々の方面に出ると云ふことも先づ第一に觀て見なければなりません、先づ此の陶磁器の輸出の約半額以上、即ち六割内外は亞米利加に出るのであります、其次には多く此東洋方面に約百五六十萬圓も出ると思ひます、それに續いては歐羅巴であります、歐羅巴は至つて少ない、約五六十萬圓くらゐしか出ませぬ、其他各地にあります、之れを大別しますると亞米利加、東洋及び歐羅巴と、斯う云ふことになるのであります、此三ツに大別します所の需要地の状況と云ふものは各々異つて居るやうに思ふ。

第一に亞米利加であります、是れは日本の陶磁器の輸出の六割を占めて居るものでありますから、日本の陶磁器の今後の發展と云ふことを詰り左右する所のもので、亞米利加の輸出が減ずると云ふことになる、と日本の焼物界は非常に不景氣になると云ふことになつて居ります、それで此の亞米利加の方に於きましては何う云ふ風であるかと言へば、此の亞米利加に於ては非常に瀬戸物殊

五

六
に磁器を多く他から輸入しまして、日本から参りをするのは僅かに其の十分の一、詰り一割、餘程多く見ました所で今日までは一割五分くらゐの間に在るのでありまして、日本に取りましては非常に大きいのでありますが、亞米利加の方から見ますると今申しましたやうな割合でそんなに多くはないのであります、其の大部分は獨逸、英吉利、佛蘭西、埃太利から來ますので、其中最も最近に於て多額を占めて居るのは獨逸の製品である、日本は從來亞米利加に於て今日のやうに多額ではありませんでしたが、七八年以前より或貿易業者が卒先磁器の改良を施しました、其の結果多額の製品を輸出するやうになりました、著しく其の輸出額が進んだのであります、然しながら今日の状況は今お話をしたやうな次第でありまして、尙ほ澤山な陶磁器を輸入する餘地を持つて居るのであります、今日日本品と専ら此の亞米利加の市場に於て競争せられて居るのは即ち獨逸の品物であつて、詰り日本品と獨逸品とは幾らか似たものが出來て居る、併し未だ中日本品の磁器が一般に需要の多い所の實用的のものにまで使はれて居ると云ふやうな状態にはなつて居らないのであります、今回の共進會にも愛知縣、又當

兵庫縣からして輸出向の磁器が出て居りますが、其中には亞米利加向もあるやうであります、併ながら其の種類は多くは今申しましたやうな獨逸品と競争するような實用的のものでなく、玩弄的の品物として多く取扱はれて居るやうなものであらうと思ふ、固より此の玩弄的の品物も無論賣れたら結構であります、が、未だ澤山に這入るべき餘地のある場所を塞がうと云ふのには、到底是れ丈では六つかしいのであります、先程申しました通りに或一二の製造所が大いに改良を施し、其の輸出額を増進しましたが、未だ一般に其の改良が行き渡ると云ふ譯には行かない、即ち單に玩弄的と云ふばかりでなく、全く獨逸の品と同じやうな状態に於て向ふへ行つて使はれると云ふやうになるには、未だ中々一般の改良が出來ない以上は六つかしいと思ふのであります、そこで其の改良は何う云ふ風にして宜いかと云ふやうなことになるります、是れは中々長いことになりましてからして茲に申し上げることは一寸六つかしいでござりますが、要するに何うしても商に於ても、工に於ても大いに改良しなければならぬと云ふことになるのである、現今の状態に於ては此後等希望を達することが出来る

かど云ふと、中々今日の商工の状態に於ては何うであらうかど云ふことを餘程思ふのであります。併し幸にも先程申しましたやうな卒先して改良の任に當つた所の貿易業者及び製造者がありましたがために、目下一般に改善を促しつゝある、即ち商賣の方も大いに氣が注かれて、さうして改善と云ふことに就て工の方を促しつゝあるやうに思つて居りますからして、是等の改善が出来たならば未だ充分に此の亞米利加の方に對しての輸出の餘地があるだらうと思ふのであります。併し只今申しました通りに今日のやうな状態では將來何うであらうか、大いに悲觀しなければならぬと思ふ、一方亞米利加の方から考へますると、亞米利加でも決してそんなに多額の陶磁器を外國から輸入して居ると云ふことは國として面白くないのでありますから、國內に於ても製造と云ふことは非常な獎勵をして居るのであります。種々の技術家、學者其他が大いに各原料の調査とか、製造法の研究と云ふやうなことに勉めて居りまして、亞米利加に於ても追々之れを製産し、他からして仰がなくなつても自分の國で實用的の物が出来るやうになることは、そんなに遠いことでもなからうと思ふ、それから又獨逸

の如きも既に何時までも亞米利加へ獨逸本國から出して居ると云ふことは困難である、何うしても進んで亞米利加に行つて製造をやる方が宜いと云ふやうなことをもう餘程前から言つて居る、又現に獨逸人は亞米利加の方へ進んで行つて製造法をやつて居るやうな次第であります。一方に於てはさう云ふ風になりますからして、日本の陶磁器業者は尙更餘程の覺悟を持たなければ、亞米利加に對しては此後悲觀しなければならぬかと思ふのであります。

それから其次には歐羅巴の方であります。が、歐羅巴の方は御承知の通り獨逸、佛なるものが主なるものであります。是等は各國共陶磁器の製造が盛であります。只今申しました通りに亞米利加の方は獨逸、英、佛から盛に輸出して居りますので、勿論是等の國は輸入もいたして居りますが、何れかど云ふと皆陶磁器の輸出國となつて居ります。内地のものは自分で拵へる、さう云ふ風でありますからして、日本が斯う云ふ遠い所へ持つて行つて競争すると云ふことは中々困難であります。何うも玩弄的のものでは可けない、需要の多い物は實用的のものと云ひますが、歐羅巴に持つて行つて實用的のものと云ふことは餘程困難である、亞

米利加に於てすら此後大いに悲觀しなければならぬと云ふやうなことがあるのでありますから、歐羅巴に於ては尙更六つかしいこと、思ふ、又現にさう云ふ状態になつて居りますで、此の方面に向つては日本に特色のある所のもの、譬へば九谷焼であるとか、或は粟田焼であるとか、或は薩摩焼であるとか、或は肥前物であるとか、詰り裝飾實用共に向ふで出来ないと云ふやうなものを持つて行かなければ中々六つかしいこと、思ふのである、併ながら此の共進會に九谷焼も出て居ります、又肥前物も出て居りますが、是れは日本の特色を或點に於て失はない、然し何時も同一では困ります、又意匠等の如きものは敢て特色と申しましても世界的でありますから、眞似をしやうと思へば何所でも矢張り眞似が出来るのであつて、たゞ意匠の特色と云ふことだけでは決して安心をして居ると云ふ譯にも行くまいと思ひます、先づ日本は今日の所で幸なとは畫を描くと云ふやうなことが割合廉價に出来ます、是れが外國に於ては非常に高價に附くのであります、此の印刷をしない、即ち手で畫を描くと云ふことは非常に高く、向ふでは手で描いたものは、是れは特別に手で描いた瀬戸物であると云つて

非常に高い値で賣つて居るくらゐであります、今回の共進會にも皆其點を利用して、其裏に態々是れは手で描いたものであると云ふことを附けて居るやうであります、是れは即ち日本に於ての特色であつて、此の點が割合に安く出来ること、云ふことは餘程都合の宜いこと、思ひます、此の意匠と云ふことも成るべく日本の特色を以て今の廉價なる畫附と云ふことを捧げ、さうして進んで行くこと、云ふことにしたらば大變に宜からうと思ひますが、素地の改善と云ふことが出来なければ之れを實用的品種に應用することが出来ない、先程申したやうに漸く其の改善に向ひつゝあります、が、まだ全般には行はれないので、神戸邊で畫附を澤山にやつて居りますが、素地は悪くて折角の上繪も引き立たず、誠にお氣の毒なやうに思はれる、此の共進會に出してある素地は多く尾濃から来て居りますが、此の尾濃の素地はまだ一般に改良されない、ためにまづい素地に畫を附けなければならぬ、若しも素地が宜かつたならば此の畫附が一層引き立つて立派になると思ひます、此の生地が悪いと云ふことは非常な缺點である、是れは何うしても實用、裝飾共に改良をしなければ到底今の目的は達せられ

ないと思ふ、是れは矢張り工の方でありますが、併し大いに商工共に此の改善を努めて戴かなければ充分のことは出来ないだらうと思ふ。

それから東洋方面でありまするが、之れに就ては私が昨年支那に参りまして大いて感じたことを一ツ申し上げたいと思ふ、東洋方面に向つては日本からも輸出を致しますが、歐羅巴、主として獨逸、埃太利、英吉利邊からも澤山に輸入して來て居ります、殊に近來支那に於きましては外國の陶磁器を餘程使ふやうになりました、で私が驚きましたのは、支那人は或點に於ては餘程日本人以上のハイカラになつて居る、之は有數の都市で外國人に多く接して居るからでもありまじやうが、御承知の通り支那人は非常に茶を喫みますが、其茶を喫む所の茶碗の如きものは從來支那製の物が普通に使はれて居つたのであります、此頃は多く獨逸、埃太利邊で造る所の普通磁器の珈琲碗、或は紅茶碗を盛んに使つて居る、是れは特に支那向として拵へたものではないかと思ふ、くらゐに餘程能く出來て居る、それは實用向に非常に堅牢に造つて居る、普通此邊に出て居るやうなものとは丸で違ふ、此邊にあるやうなあゝ云ふ薄いものではない、喫む所だけは薄くな

つて居りますが、中の肉は非常に厚くして中々巧く出來て居る、實に私は感心をしたのであります、固よりさう云ふ支那向でありますから、非常に立派なものでもないが、併し値段が大變に安い、其他肉皿の如きものは、是等も段々支那人が矢張りハイカラになつて支那料理を西洋流にやると云ふやうなことになる、此の皿の類を大變に使ふ、其の皿は英吉利から輸入して來て、今の磁器と云ふ方でなくして陶器と云ふ方でありませうが、是れは中々多額の輸入があるやうであります、日本に於きましては矢張り英吉利からして今日まで大分輸入して居つて、日本では今まで出來なかつた、それを漸く此頃内地で造るやうになりましたので、輸入を防壓しつゝあります、其の品物と同じ物が支那へ澤山に這入つて居ります、斯う云ふやうな方面に向つて外國品と大いに競争をして出す所の餘地が澤山にある、日本からはまだ中々此の極く手近な所の支那に於て、此の陶磁器に就て外國品と争ふことが出來ない、外國まで行つて争ふことも必要であります、が、極く手近な支那に於て充分其の競争をする餘地のあることを認めて來たのであります、随つて私は歸りましてから、夫等のことを當業の人に種々話をした

ことであります。が大いに此後支那方面に向つて陶磁器に就ては注意をしないと思ふのであります。たゞ値段が非常に安い、果して其の値段で日本の製品が出来るか何うか、詰り支那の市場に行つて、歐羅巴の品物と競争をすることが出来るか何うかと云ふことは餘程疑問であります。是等も亦今の工場組織の改善、製造法の改良、詰り工商の一致とか、種々なことを爲すにあらざれば到底外國品と競争をすと云ふことは出来ないだらうと思ふのであります。すが、兎に角手近い所に餘程まだ競争すべき餘地が澤山にある、で遣り方に依つては大いに有望であらうと思ふのであります。

先づ陶磁器のことは此のくらゐにして置きまして、次に硝子のことに移ります。今日は硝子に御關係のある方が居られるか何うかは知りませぬが、此の硝子は主に輸出品としては東洋方面でござりまして、支那方面には昨今のところ日本が一番餘計に出して居る、であります。が大體から言ひますと、東洋方面に就ては矢張り獨逸、埃太利の製品が段々と勢力を進めつゝあるやうである、日本品はたゞ安い、品物が悪くつても安いと云ふやうな所で、マア漸く或需要の方面に

は賣れて居りますが、是れも今日の状態が永く續くか、又進むことが出来るかは餘程疑問であらうと思ふ。固より硝子と云ひましても非常に種類が多い、壺もあればホヤもある、コップもある、又其他の食器もある、是れはマア矢張り個々別々に言はなければならぬことですが、先づ品物が悪くつても値段が安い、是れはもう安ければ物が悪いと云ふことは已むを得ぬでせうが、併ながら安くつても實用にならぬと云ふものがあつては困ります。其の一例を挙げますと、需要の多いホヤの如き物の類は使つて見ると直ぐに破れるのである、殊に寒氣の強い北清地方に於ては破れ易いのであります。日本の品物は詰り破れ易い、外見は立派に出来て居るけれども、實際使つて役に立たぬと云ふのでは如何に物が安くつても買はないと云ふことになる、内地なごに於てはホヤのやうなものは随分破れると云ふことは皆殆んど疑はない、一向平氣です、我々の所でもホヤを買つて來ては又破れたと云ふやうな譯で又買ひに行く、兎に角破れても何でも安い方が宜いと云ふやうな需要者の考であつて、需要者は少しも意に介して居らない、もうホヤは破れるものと決めてしまつて居ると云ふやうなことであればまだ

宜いのでありますけれども、さうでなくして少しく需要者に經濟の考があり、又さう云ふ品物ばかりが行つて居ればさう思つても居りませうけれども、他に比較して良い品物が假にあるとすれば、幾ら安くつてもさう云ふ破れるものは損だ、詰り高價でも破れない物の方が宜いと云ふことになるからして、何うしても是れは安くても可けないと云ふことになりませう、此のホヤの如きは最も適切な例であります、さう云ふ邊に就て改良の出來ない以上は到底永く其の販路を維持して行くこと云ふことは餘程六つかしい、是れは現に御承知とも思ひますが、各領事館とか公使館とか、或は商務官とか云ふ方から、常に硝子に就て種の報告がある通り、日本品は何うも用途に適せない、或は破れ易い實用にならぬと云ふので、段々ど獨逸品に其の位置を奪はれて來ると云ふやうなことになる、日本品の或物にして少しく良く出來たものは皆外國品として賣られて居る、日本品としては賣れない、現に私などが上海其他の都市の店に行くともう支那人は日本品を馬鹿にして居る、日本では斯んな悪い物が出來ると云ふやうにも、う日本品は粗悪なものと、斯う決めてしまつて居る、であるからして同じやうな

コップでも日本品と外國品とは値段が倍も違ひます、日本品は悪くつて安いもの、斯う決めてしまつて、偶々日本品の良い物があつても、是れは日本品ではないかと云ふくらゐにまでなつて居る状態のやうに見受けて參りました、さう云ふ風では此後中々發展するとか詰り輸出を盛にするとか云ふことは餘程六つかしいと思ふ、其他壞のやうな實用的のものでもさう云ふことを段々と聞いて居る、譬へばラム子の壘のやうなものは大阪邊からして少しく出ますが、中々用途に堪へない、それがために獨逸品などが來て居りますが、日本の物は壓力に堪へないで直ぐに破れてしまふと云ふやうなことになつて居る、それでは可かない、そんな譯ですからして此後又餘程之れを改善するにあらずんば輸出を進めると云ふことは此の硝子に就ても六つかしいこと、のやうに思はれます、而して此の改善と云ふことに就ては陶磁器と殆んを同様なことに思ふのでありまして、矢張り是れは商工一致してやらなければ逆も出來ない、其の製造法も現今のやうな状態では逆も六つかしいと考へるのであります、硝子のごとは此のくらゐにして置ませう。

其次には七寶のことであります、七寶は御承知の通り何れかと云へば裝飾的の品物でありまして、是れは從來日本特技の美術工藝品として輸出せられて居る、今までの外國の種々の博覽會、共進會等にも澤山出して居りますが、併し段々良しい物と悪い物とを混同すると云ふやうなことがあるので、自然此の七寶の價額を下げるに云ふやうなことがあるやうに思つて居ります、是れは日本の特色のものであるから、最も精撰した物語り意匠其他技術に於ても世界に向つて誇るべき物を大いに出すと云ふことを努めなければ此後は何うしても可けまいと思ふ、先づ物を拵へると云ふことに就ては、成程貿易品として安くなくちや賣れないではないかと、斯う云ふやうな説もありませんが、それは物に依ると思ふのであります、値段が安い許りでも賣れないと思ふ、何所までも日本の精を集めて、さうして比較的安く拵へると云ふことを勉めなければならぬ、さうでなければ將來此の七寶の如きは今日の輸出の状態を維持して行くことが六つかしくはないかと思ひます、尙ほ一方に於ては之れを實用的の或物に應用することを勉めなければならぬ、今回の共進會にも出て居りますが、裝身具等に應用してある、是等

の物は餘程面白いだらうと思ふ、兎に角此の七寶は手先の仕事であつて、何うしても歐羅巴に於ては此點が日本に敵はない、是れは手工を非常に要するもので、無論機械的でやると云ふことは出来ないものでありますからして、今日の所では是れが最も日本の適切なる工業であらうと思ふ、殊に家内の工業である、極く大きく工場組織でなくして出来るものでありますからして、最も都合の宜いものであらうと思ふのであります、即ち一方には精撰なる裝飾品を拵へ、又一方に於ては極く實用的の物を拵へると云ふことで進んで行かなければなるまいかと思ふのであります。

それから珫瑯鐵器であります、此の珫瑯鐵器は兵庫縣に一の製造所があります、多くは大阪であります、是れは内地の需要を先づ主として居りまして、今日の所では輸出は極く僅かで滿韓方面の内地人の需要に止まつて居ります、是等も支那方面を廻つて見ると非常に需要がある、總て獨逸、奧太利の品物が支那方面には輸入されて來て居る、之れに對して此の珫瑯器を日本から拵へて行くに云ふことは、是れはもう餘程以前から皆唱へて居る所でありましたが、現今の

製品では到底六つかしい、此の珉瑯鐵器と云ふことに就きましては私は随分古くから關係して居りましたして其の改善と云ふことは漸く昨今に至つて當業者も氣が注ぎ、又農商務省の如きも大いに之れに力を注ぎ、前の森田商工局長などは大いに熱心に之れを主張せられました結果、此の珉瑯鐵器の製造機械を第一に外國から取り寄せて當業者に之れを貸與へることに致しました、今日は大阪に一ツ、三重に一ツありますが、此の機械に依つて餘程製作の法を改良しかけたのであります、同時にエナメルと云ふことが非常に困難であつて、從來當業者は餘程實地苦しんで居りますが、到底外國品の如きものは出來ない、是れは是非試験をして貰はなければならぬと云ふので、昨今農商務省の工業試験所に於きまして試験をいたして居ります、で稍や其の成績が擧つて來たので、遠からず之れに就ての結果を發表する時期があるだらうと思ひます、詰り此の生地 of 製作及びエナメルの改良が具體的に出來ない以上は、到底是れも支那に向つて獨逸、埃太利の品物と競争すると云ふことが六つかしい、又是れが出來たにした所で獨逸、埃太利邊から支那方面に來る所の珉瑯器は非常に安い、其の値段にて競争

し得るか何うか、同じ品物を拵へて競争し得るか何うかと云ふことは餘程疑問であらうと思ひます、兎に角若し輸出品として出來るならば前途非常なる望があるのであります。

其次にはセメントであります、是れはもう申し上げるまでもなく内地の需要は固より充實して居りました、只今矢張り輸出品にもなつて居りますが、是れは滿洲或は朝鮮、浦鹽等の臨時の土木或は建築工事の用途のために今の所では輸出して居りますが、果して將來持續されるや否やと云ふことは餘程疑問である、此度私が支那の方に行つて驚きましたのは、支那に於て立派なセメント會社が成り立つて居るのであります、支那に於ける工業状態と云ふものは餘りまだ能く分つて居らないやうであります、外務省通商局長から支那の利權に關する工業状態の報告に大變に詳しいものが昨年出まして、之れにも載つて居りましたが、是れは私も實際に行つて見て驚いたのであります、實は北清方面に於ては日本の小野田セメント會社が大連に製造所を起し、成功をいたして居ります、其の遣り方は最も最新式に據り、大いに外國品と競争を爲し得る状態にあるの

二三
で、此の東洋殊に北清方面に於ては是れが第一の製造所であらうと實は思つて居りましたが、實際支那に行つて見ますと、豈圖らんや同じ北清に小野田セメント會社以上の製造所が出来て居る、それは天津の近くで唐山タンシャンと云ふ所でありまして、例の有名なる開平炭礦の直ぐ傍らであります、而も全く支那人に依つて經營されて居る會社であります、尤も其の技術の方面は悉く獨逸人に依つてやつて居るので、此所では今盛に尙ほ工場を増設しつゝありまして、餘程良いセメントが出来て居ります、それから又近くは大冶ダイヤにセメント會社が出来て居る、其他まだ計畫中のものもあるやうに聞いて居りますが、是等のセメントが段々出来て参りましたならば、逆も日本から持つて行くことには困難である、此のセメントと云ふものは非常なる重量の掛るものであつて、其の運賃に大部分を取られてしまふ、近來セメント界が振はない、或セメント業者の如きは仕事を持續することが出来ない、と云ふやうな状態も現にあるやうであります、して見ると此のセメントの如きは此後の輸出と云ふことは困難であるだらうと思ふ、尤も其の目指して居つた所の東洋方面の支那の如きは内地にドン／＼さう

云ふ工場を起すと云ふことになつて、而も其の工場は最新式の方法に依つて出来るのでありますから、逆も日本の舊來の製造法のやうなものでは追つ着かないと思ひます。

それから終りに煉瓦であります、煉瓦も赤煉瓦に就ては別段申し上げることがない、實は耐火煉瓦である、是れも内地の需要は殆んど充して居るのであるから、將來は輸出を盛にしなければ發展しない工業の一である、併ながら是れも亦何うもセメントと同じことに餘程困難である、實は矢張り昨年支那に行つて見て参りましたが、支那にも矢張り製造所があつて非常に安く出来て居ります、或特種の性質の物は成程未だ出来て居りませぬが、それでも製鐵所の特種の煉瓦の如きものは漢口の製造所等に於てポツ／＼遣りかけて居る、嘗て日本からして輸出をされたのが、トンともう近來は行かなくなつた、それは行かなくなつた筈です、向ふでもう製造をやつて居ると云ふやうな状態であつて、何うも是れは餘程困難であらうと思ふ、是れも非常に目方の掛るものであるから、中々向ふまで持つて行つて競争をすると云ふことは餘程困難な有様であるやうに感

じて参りました。

要するに窯業製品は此後何うしても輸出と云ふことに俟たなければ發展が出來ない、即ち輸出の増減と云ふことが斯業の盛衰に關する譯である、若し輸出が減つて來たならば此の窯業は衰へると云ふことに歸着するのである、それで此の輸出を増進すると云ふことになり、何うしても早く言へば詰り良い品物を安く拵へなければならぬと云ふことになるのである、併し其の良い品物を安く拵へると云ふことが中々困難であらうと思ふのであります、而して其の製造費を減すると云ふことに就て之れを一々言ひますれば多少別々になりませんが、先づ窯業製品の大體に就て云ひますと、之れを外國、即ち此後競争をしなければならぬと云ふ詰り敵なる所の獨逸、埃太利、英吉利又は亞米利加等に比べて見ると、原料に於て又燃料に於て總て日本の今日の狀態は不利である、外國に於ては安い原料を使つて居る、又燃料即ち石炭の如きも非常に安い、然るに日本の此の大阪或は東京の工業地に於ける所の石炭の値段は決して安くはないのであります、埃太利の如きは一噸が僅かに二圓くらゐである、或は中にも安いのは

一圓五十錢、尤も石炭の種類にも依りますが非常に安いのである、獨逸の如きは埃太利より石炭を或部分持つて來て居る、又獨逸國內と雖も中々廣いのであります、それでも遠くから汽車で運んで來ても大阪邊と比べて見ますれば、或は同額若くは幾らか安い方であり、亞米利加になると又石炭が非常に安い、日本も今日動力の問題として石炭の代りに水力が出來るとか云ふやうなことで、マア聊かそれに望を置いて居りますが、我々の窯業は動力と云ふことの問題の外に、自分で製造すると云ふことに就ては、此の燃料と云ふものが、餘程主なる製造費を成し居るのであります、殊に硝子の如きは左様であります、即ち燒物及び硝子の如きは此の燃料に製造費の二割なり、三割なりが掛るのである、然るに是れが高いと云ふことは非常に苦痛である、其餘す所は詰り工賃問題である、此の工賃が向ふと比べて見て何うであるかと云ふと、是れは餘程考へなければならぬことであります、原料が高いし、燃料は高い、皆高いものばかりであるから、餘は殘る所の工賃と云ふもので補ひを着けなければならぬ、それだから工賃が安く出來なければ到底同等の資格に於て競争をすると云ふことが出來ない、然る

に物にも依りますが、硝子の如き、或物を計算して見ますと、決して工賃が安くはない、譬へば麥酒壘を一本造る所の値段は獨逸と比べて何うであるかと云へば、殆んど同じである、決して日本が安くはない、是れまで日本は勞銀が安いからと云つて居りましたが、それは決して當てにならないことである、たゞ一人に拂ふ所の勞銀は安くありますが、それを一年に並べて見る、詰り一年の精算から云つて見ると少しも安くない、さう云ふ状態であるからして工賃と云ふことで打勝つと云ふことは中々困難である、況んや此後外國に於ける硝子製造に就ては、彼のおらぬ手工を要する所の製造に於ても益々機械の應用と云ふことを研究しつゝ、ある、譬へば壘を吹くに就ても機械で吹く、又窓硝子の如きは現今頻りに機械を應用せんとしつゝある、さう云ふやうに機械を利用し、さうして其の高い勞銀に代へやうと云ふことを致々として研究しつゝある、今日では双方餘り異らぬ所へ持つて来て、更に向ふではドン／＼機械で大きくやられると云ふことになれば、將來果して何うであらうか、競争は中々困難であるに相違ない、さう云ふ状態であるのに今日辛うじて其の輸出をして居ると云ふことは何う云ふ譯である

かと言へば、詰り或物は決して外國品と同一の物を拵へて居らない、譬へばホヤに就て云つて見ると、先程申したやうな破れて居る物を拵へる、コップで云へば形體だけは出来て居るけれども、本當の物は出来て居らないと云ふことである、只工場に固定資本を掛けない、成るべく利息を拂はないやうにして、さうして小さい組織でやれるものは、何うか斯うかさう云ふとで補ひを着け、さうして安くやつて居りますが、品物は本當の物が出来ないと云ふことになつて居ります、工場設備も完全にするには又外國より以上の固定資金を通常要しますから日本の如き利息の高いところでは困ります、そこで先程言ひました通り、此後の輸出の發展を圖ると云ふことに就ては、さう云ふやうな遣り方では、逆も品質を改善して向ふと同じやうな物を拵へて同じ値段でやると云ふことは到底出来ない、是に於て工場の組織であるとか、或は商賣のやり方に就て餘程改良を施さなければ、其の目的を達することは難いと思ふのであります、此後のことに就きましては、物に依つては先程申しましたやうに歐羅巴、亞米利加もありませんが、此の窯業製品に就ては東洋方面と云ふことに大いに注意を拂ふと云ふことが必要で

あります、是れは何人も對清貿易とか東洋貿易とか、口には彼、是云ひますが、實際に就て大いに調べなければ可けない、たゞ空にそれを云つた所で果して其の目的を達せられるか何うかと云ふことは、私は今日非常に疑つて居る、支那の方を見ると、支那の内地に於て段々と工業が起る、現今の所では支那があゝ云ふ状態でありますから、或は經營しても遣り損ふと云ふこともありますが、外國人が來て遣るです、それが二ツの中に一ツ、或は三ツの中に一ツは段々と成り立つ、現にセメントの如きは立派に成立つて居るのであります、段々さう云ふことになつて参りました、さて原料、燃料と云ふ點になつて來て、此度は歐羅巴でない、支那の方を考へて見ると、支那の方も是れは中々歐羅巴と同じやうに餘程安く得られる點がある、此の窯業の方の原料は餘程天産物に俟つ所のものであつて、何うしても天然に出なければ何うすることも出来ない、而して其の天然に出る所の分量が少なくなつては困る、日本でも種々なものが出來ますけれども、不幸にして小さい島國であるから何うも其の分量が少ないのである、ところが支那の方へ行つて見ると詰り大陸的で、其物が非常に多く出る、或は滿洲に於ける撫順炭礦の

如き、或は大冶鐵礦の如き、實に世界に稀なる豊富の額を地中に有して居る、斯う云ふものは支那でなければ見られない、日本には中々そんなものはない、實に支那は天産物に富んで居る、それであるからして其所で盛に遣られると中々敵はない、一方に於ては外國の獨逸、奧太利の品物と是れから進んで競争をして行かなければならぬ、一方に於ては益々販路を擴張しなければならぬ所へ持つて來て、東洋方面に於ては向ふで着々事業を起さうと云ふことになつて居りますから、日本の當業者は此後非常なる覺悟を以て之れに當らぬければならぬ、さうでなければ此後此の輸出を發展すると云ふことは頗る難いことゝ存じます。さう云ふ譯でありますから、今日の如く商は互ひに相争うて價格を下げる、譬へば甲の人が十錢で拵へる物を乙の人の所へ持つて行つて之れを九錢で拵へると云ふことになる、さうすると乙の方の人では何うかして拵へさせて貰ひたいと思ふから、それで引受けると云ふ譯で、ドン／＼値段が下る、ドン／＼値段が下つて來ると、隨つて手を減さねばならぬと云ふ譯で、自然に粗惡な物が出來るのである、斯様に商は商で争ひ、工は工で争ふと云ふやうなことでは逆も可けない

と思ふ、詰り永遠のことに就ては商は商で一致して須く將來のことを考へる、詰り斯う云ふ品物でなければ買つてやらない、假令値段は高くつても斯う云ふ品物でなければならぬと云ふくらゐになつて戴かなければ、逆も今日の状態では可かないと思ふ、工の方も亦商から斯う云ふ物が出来るかと言はれても、今日の所では未だ充分に出来ない状態である、それでは甚だ困るのでありますから、是れは何うしても何とか方法が變らなければ此の改善の目的を達することが出来ないと云ふことは事實であらうと思ふ、現に陶磁器の如きは或貿易業者が改善の點に着眼をして、所謂工の方をやつて見た、即ち商の方から第一着として改善を圖つた、是れは決して商の人もやりたくない、けれども今日のまゝに打棄てて置いては自分の商賣が立ち行かない、詰り自分で賣る所の品物が出来ない、自分で金を儲けやうと云ふ所の品物が出来ない、即ち鐵砲玉がなければ戦争が出来ないと同じく、大きく儲ける所の商品が出来ない以上は到底駄目な話である、それだから商が進んで工をやつた其の結果、それが延いて日本に於ける陶磁器の全體の改良と云ふことの模範になりつゝ、あるのであります、詰り硝子の如き

もさう云ふ工合になつて行かないと云ふと、此後の輸出と云ふことに就ては餘程困難であらうと思ふのであります。

大變に長くなりましたが、詰り私の希望は此後之れに向つて餘程注意を拂はなければ、此の窯業製品の輸出を將來永く續けると云ふことは出来ないと思ふことと、それから之れを増すことが出来るや否やと云ふことは今日疑問にして置くのであります、是れは一に繋つて商工業者の熱心如何と云ふことに歸着するだらうと思ふ、今日私の申しますことは甚だ前後致しましたり、時間の少ないと云ふやうなことから、非常に飛ばしたり致しましたので、定めてお聞き取り難かつたらうと思ひますが、先づ大體是れだけのことをお話申して私の責を塞ぐことに致します。(拍手大喝采)

歐米輸出罐詰に就て

農商務技師 梶川 温君

私は此度此の共進會の審査のことに就て當地へ出張して参りました。ところが審査長から皆さん方に向つて何かお話をしたら宜からうと云ふことであつたのですが、何分出先のことであるので、一向参考とすべき書類も持たず、實は再三辭したのですけれども、他の人もやるのだから是非お前もやれと云ふことで、已むを得ずお受をしたやうな次第であります。夫れで今日は皆さんがお出になつてお聞き下さる程の話ではないのですが、併し私が平生考へてゐることを一ツ皆さんに聽いてお貰ひしたい、實は平野君が先きにやる筈でしたが、私は今日此のお話を終つてから直ぐに歸京する積りですから、夫れで私が替つて先きにお話をする事になりましたのです。

夫れで此の歐米に輸出する罐詰と云ふことは、これは此邊の皆さん方に取りましては少しく狭いお話であるかも知れぬけれども、併し從來此の神戸或は横濱にお住ひになつて、貿易と云ふことに考を持たれるお方に取つては、今後充分に御講究の價值あるものと私は考へます。夫れでどうか其のお積りで一ツお聞きを願ひたい、御承知の通り此の罐詰と云ふことは僅か明治十年から始まつたもので其前は先づ日本には無かつたものと存じます。夫れが段々に發達して参りました。其の發達の階段として日清戦争で罐詰業が一進歩を爲し、夫れから又日露戦争で一進歩を爲して居る、即ち戦争毎に罐詰業が發達をして今日に至つて居ります。夫れで昨年の現在に於て日本に罐詰業者と稱する者がどれだけ居るか。と云ふことを調べて見ますと六百六人居る、所謂罐詰を業とするものは餘程殖えたのです。夫れから其の製造に要して居る資本はどれだけを使うて居るか。と云ふと、是れは流動資本と固定資本とを併せて三百三十萬四千百八十八圓と云ふ金を使うて居る、斯の如く日本の罐詰業は個人的ではありませんが、之れを集めて見れば立派な一の事業になつて居る。夫れから其の製造高は何うであるかと云ふと、先づ罐の數から云へば、四十三年の産額は二千七百四十五萬五千百二

十八個、其の價額が四百五十五萬四千八百三十四圓であるからして、其の産額も決して尠なくはなる。

そこで此の罐詰に就て何う云ふ品物が多いかと云ふてとに就て、其の種類を調べて見ますと、魚介藻類が二百三十九萬二千五百五十八圓、夫れから鳥獸類が二十八萬八千十一圓、夫れから果實類が三十四萬七千七百九十四圓、夫れから蔬菜菌茸類が五十二萬五千六百十六圓、夫れから其他のものと云ふのが四十六萬八百五十五圓、是れは即ち前の製造價額の内譯になつて居ります、して見ると私の本職として居る魚介類の罐詰が一番に多く出来て居る、殆んど半數は魚介類です、是れは當然だらうと思ひます、日本のやうな魚介の多い國に於ては、魚介の罐詰が一番に發達するが當然であると云ふことは、第一材料が廉いのです、之れに反して果實類と云ふものが如何にも少ない、是れは日本の果實は御承知の通り在來種は殆んど野生的であつて、誠に系統が正しくない、譬へば百個揃ようとしても殆ど同じやうなものが出来ない、其の形なり色なり味なり一定しませんが、聞くところによれば杏の如きも二十何種あると云ふことです、同じ杏子と雖も二

十六種もある、そこで何うも品物が一定しないため罐詰も出来ません、随つて我國の罐詰中でも果物の罐詰が一番に幼稚で、又一番にまづいやうに感ずる、夫れだから亦其の製造額も一番に少なく出来て居る譯であります、果物は根本即ち種類の培養から改めねばなりません、夫れから罐詰と云ふものが是れだけ出来るとして、とれだけを外國に輸出して居るかと思ふことを調べて見ますと、先づ支那人の嗜好する鮑罐詰だけが四十一年に於きまして六萬一千五百二十七打、其の價額が十六萬五千六百九十六圓、四十二年に於ては十萬九千三百四十五打、其の價額が二十五萬六千五百七十七圓、夫れから油漬鮭であります、是れは四十一年度に於て二萬五千四百八十二打、其の價額が五萬五百十五圓、四十二年に於ては七千五百二十五打、其の價額が一萬九千九百二十三圓、前の方の方は四十一年より四十二年に至つてズツと殖えて居るのですけれども、油漬鮭の方は四十二年に至つてズツと減つて居る、夫れから魚罐詰と云ふのが、是れは何うも其の内容を分け難い、此中には種々の罐詰が入つて居る、此の魚罐詰と云ふものは在外日本人の食物であつて、白人の喰ふものと云ふのは一も行つて居らないと云

ふ考です、また無いのです、横濱あたりから出るものでも多くは日本の出稼人の食用品です、是れが四十一年に十一萬五千六百七十七打、其の價額が二十四萬九千七百九十三圓、四十二年に於ては十八萬七千七百一打、其の價額が五十二萬三千九百六十一圓、即ち四十二年には此の魚類の罐詰が非常に殖えて來た、夫れから茲に特に一ツ申し上げべきものは蒲鉾の罐詰である、是れは此の邊でも御承知の通り伊豫の宇和島とか今治とか、總て此の四國沿岸には最も蒲鉾の罐詰の良いのが出来ます、是れが四十一年に五萬三千四百九十七打、其の價額が十一萬八千四十二圓、四十二年に於ては五萬五千三百七十三打、其の價額が十一萬五千八百十五圓、是れは魚類の中でも特別に分つて是れだけのものが出たのですから、大藏省あたりの調も誠に能く出來て居ります、夫れから蔬菜の罐詰です、是れが四十一年に十三萬四千六百二十一打、其の價額が二十三萬千百一十一圓、四十二年に於ては十五萬五千九百七十打、其の價額が二十八萬三千三十二圓、夫れから其他の數量は一寸分りませぬが、四十一年に於ての其の價額が十八萬三千二百五十八圓、四十二年に於ての價額は十四萬九千九圓になつて居ります、此の輸出

額を觀て見ると如何にも製造所が殖る筈である、と云ふのは此の鯨の油漬を除くの外は四十一年より四十二年に至つてズツと輸出が殖えて來て居る、非常に殖えて居ります、夫れで之れを合計して見ますと、日本から輸出して居る罐詰の數量が四十一年には三十九萬八百四打、其の價額が九十九萬八千四百十五圓、四十二年には五十一萬五千九百十四打、其の價額が百三十三萬七千九十七圓と云ふことになつて居る、即ち四十一年、四十二年と云ふ僅かの間に、輸出額が非常に殖えて來て居るのであります。

そこで其の之れを輸出して居る國は實に二十三ヶ國の多きに達して居ります、先づ一番に多い方から申しますと清國、關東州、朝鮮、香港、英領印度、英領海峽殖民地、葡領印度、佛領印度、露領亞細亞、比律賓、暹羅、英吉利、佛蘭西、獨逸、白耳義、北米合衆國、英領亞米利加、墨西哥、秘露、智利、濠太刺利、布哇、埃及、其他諸國に出て居る、して見ると日本の罐詰と云ふものは、殆んど歐米各國にも皆行つて居るものと見て宜い、併し夫れに就いて私がお話をしたいと思ふことは、是れだけ罐詰が出て居るからして、それだけ國家の眞の益と云ふことになつて居るか、と云ふことを考へ

て見ると、夫れは誠に情けないものである。此支那人向の鮑と白人向の鯷とを除くの外は全く日本人が喰ふのに過ぎない。成程外見上日本の利益のやうではあるけれども、國家の眞の利益としては餘り喜ぶべきことでない。右の金を左に遣るのと同じことで、貿易の上から云ふと有難いやうであるけれども全く日本人同志の共喰で餘り有難くない。能く漁つて見ると情けないものである。其他は全く日本人の足跡を留むる所に向つて此の罐詰が行つて居るものと見て宜い。決して蒲鉾の罐詰を歐羅巴人が喰ふにあらす。亞米利加人が喰ふにあらす。鯉の大和煮をば蘭領印度人が喰ふのでない。皆日本人の足跡を印して居る所に行くのです。是れは私が今日罐詰業の斯くまで發達して居りまするにも拘らず、眞の輸出品と云ふことには未だなつて居らないと云ふ所以であつて、誠に遺憾とする所でございます。随つて私は常に罐詰業者に向つて此事をお話をするのであります。諸君も眞の輸出罐詰と云ふ事については一段の御考慮を希望します。夫れで私も罐詰のことは種々にやつて見たですが、夫れでは歐羅巴や亞米利加に在るものが日本に無いかと云ふと皆あるのである。現に鯷の油漬と云ふものは日

本に出来て居りますが、亞米利加にもある。佛蘭西は勿論、其他那威、葡萄牙にもある。随つて罐詰としては一番にこれが世界的の罐詰で、殆んど世界中鯷の油漬を喰はぬ人はない。夫れくらの需要の廣い世界的の食品である。夫れから蝦です。蝦は御承知の通り伊勢蝦、車蝦、芝蝦、此の三種は日本にあります。ですが、外國にも矢張りあるのである。で向ふの人は之れを罐詰として珍重して喰ひ、日本人も生鮮のものを珍重して喰ひます。夫れから蛤、是れも亞米利加の人が罐詰として珍重して喰ひ、日本人も珍重して喰ひます。夫れで向ふの人の嗜好する罐詰の原料にして、殆んど日本に無いものはないのである。然るに我日本に在るものを拵へて向ふへ持つて行つて見ると買つて呉れない、その之れを買はないと云ふのは一の理屈もあるのでせう。日本のやうな後進國、而も東洋の隅に居る者の造つた罐詰は何うしても歐米人が初めから喰はない。是れは食品ばかりではない。其他の品物と雖も皆さう云ふ嫌ひがある。夫れから又一方から云ひます。今日、日本の罐詰業者と云ふものが實は技術と云ふことに至つては、實に幼稚で實際罐詰の學問したものは幾人かあると云ふ有様であります。

元來日本の罐詰と云ふものは技術や教育から出来たものではない、起りは鋳力細工上りの人が所謂罐詰業を營つてをりました、即ち今日罐詰會社のやうな所に於ても、多くは鋳力細工上りのやうな人が重に支配をして居る、夫れがために立派な罐詰の教育を受けた人は比較と少ない、尤も近頃は水産講習所と云ふやうな所から出た人もありますが経験には乏しいさうですから發達もおそし且つ是について痛心すべきは鋳力である、歐羅巴などに行く日本の罐詰の鋳力に就て非難の出ないことはない、日本の罐詰業者は彼の「アイ、シー、ダブルユー」と云ふやうな劣等の鋳力を使つて居るが、是れは一體食料品には使ふべきものでない、バケツか何かを造るやうなものである、さう云ふ食料品に用ひられぬやうなものゝを以て罐詰を造つて居る、尤も値段が廉いから使ふのであらうが、さう云ふ極く悪い鋳力板を題微鏡で以て観ると、鍍の行き廻らぬどころがありません、さう云ふものを使ふと云ふのが第一に日本罐詰が白人に嫌はれるのでござります、次で設備も完全せず、又た技術と云ふことも幼稚なため、譬へば蝦の罐詰をするのも鯉の大和表の罐詰を製するのも同じやうに考へてをるものがあります、向ふ

の方の罐詰業者は三種を專業とし経験を積みたるものでありますから立派なものが出来ます、日本の罐詰業者は大和表も造り水煮も造り蝦が賣れると云へば蝦を造る蟹が賣れるといへば蟹を造り手當り次第で八方に手を出すから好い罐詰も出来ません、故に殊に内地向の罐詰は只だ安物を主とするを以て、日本の罐詰の需要者は低い、日本ではもう今日のやうな粗悪な罐詰と云ふものは全く下等社會の食物になつて居る、即ち此の罐詰と云ふものが殆んど中等以上には嗜好のないまでに今日下落して居ます、夫れだから丸で向ふと此方のと對照が合はない是れでは中々白人の喰ふやうな罐詰が出来やう道理はないと思ふ。ところで彼の油漬の鯉の如きものは、私共は明治二十一年から之れをやつて居るですが、愛知の試験場でやつてから、今では随分諸方に擴がつたものゝ、まだまだ充分でないが中々罐詰としては良い品物です、日本では鯉を取つて肥料にし人糞と同様に取扱ふものを食料にするのですから、是れは餘程有益なるものである、夫れで之れを罐詰に拵へては出し拵へては出し致しました、然るに今日其の鯉の油漬と云ふものがスツカリ賣り崩してしまつて居る、其の賣り崩してし

まつて居ると云ふのは内地の製造業者が悪いのである、譬へば名古屋の罐詰合資會社、或は東洋水産株式會社、是等はみな鯔の油漬を造つては居るが、販賣上の聯絡がつかずして各自思ひ／＼に五十打なり百打なりを海峽殖民地から亞米利加の方へ出した、其の出した罐詰が何うであるかと云ふと、彼方でも問屋がある、仲買人がある、夫れから又其の仲買人と小賣業者との間に今一ツの仲介者がある、夫れから小賣業者がある、都合四ツになつて居る、然るに問屋へ持つて行つても餘り好い値を附けて呉れないから、此度は仲買人の所へ持つて行く、さうすると又蹴倒される、夫れから又仲買人と小賣業者との間の仲介者の所へ持つて行く、或は直接小賣業者にも賣つて見ると云ふやうな譯で、各自彼方此方へ行つて評價をして貰ふから、或所では非常に好い値が出たり、又或所では一向値が出ない、夫れがために、賣方でも随分苦心をして居る、さう云ふ風にして賣方が諸方に出したものですから、問屋なり仲買者なりは一向力を入れない、折角此方から賣らうと思つて持つて行つても問屋も仲買人も又は仲介者も頓ど力を入れて呉れない、折角持つて行つたものが皆弄り物になつてしまつて、一時紐育の市場

なきに於て鯔漬は買手が無いために、空しく積んであつたこともある、と云ふのは日本の罐詰業者が團結をせずして、各自思ひ／＼に出した結果こゝ云ふ工合になつたのである、随つて到頭好い値を出すことが出来ずじまひに今日に至つて居る、是れは本邦同業者の賣方が可けない、夫れで先づ第一に商賣の仕方を研究しなければ罐詰の輸出と云ふものが出来ない、と云ふことは、今日孰れも覺て居る次第であります。

夫れでありますから詰り歐羅巴、亞米利加なきに行く日本、の鯔油漬罐詰は何が缺點かと云ふと第一に鍼力が悪いのである、其次には油が悪い、夫れから價格が比較的に高い、此の三點です、夫れで日本の鯔は日本の動物學者の説に據ると、佛蘭西のサルジンと同じものだと云ふことにはなつて居るけれども、さて佛蘭西のものとは全く同じものとは思はれぬ點もありません、味に至つては餘り異らぬものと私は見て居りますが、併し油が悪いために夫れだけの味が出ない、夫れで日本の鯔油漬は那威あたりから出て来るスプラットと云ふものとはちがつてをります、スプラットは内海のサツパと同じやうなものです、随つて那威産は價格

も廉く日本産も那威と殆んど同様の價に附けられてしまつて居る、けれども日本鯧の味に至つては確かに亞米利加に行つても、濠洲に行つても、其他何所へ行つても評判は宜しい、即ち品質の悪くないと云ふことは皆認め居る所である、夫れにも拘はらず今の鐵力が悪いことか油の悪いことに依つて、夫れだけの聲價を揚げる事が出來ないのは残念であります、固より此の油には彼のオリブと云ふものを使ひます、伊太利のセノア、佛國のチユニスの如きは此の油の本場であり、此の鯧油漬の油としては決して純オリブでは可かぬ、他の油を調合する、是れが殊にポルドーなどに於ては一の秘術になつて居る、御承知の如く鯧の油漬と云ふものは佛蘭西のポルドーが一番の本場であり、と云ふのは其の油の調合法や萬事鯧油漬で立て居ります、一種の鯧油漬の油を造つて居る、其の油と云ふものは買はうと云つても無い、日本では高い金を出して純オリブ油を製造しても決して向ふでは夫程に買ひませぬ、油の配合は一の技術になつて居るのであるから、我國に於ても此の油の點には深く注意をしなければならぬ。

夫れから日本の鯧詰は價格が高いと云ふことである、此の價格の高いと云ふことは全く日本の製造の熟練、不熟練から起つて居る、と云ふのは何うしても日本の製造の方であつて見ると妙な工合になつて居る、此の鯧の油漬などと云ふやうなものは一ツ所に大きな製造所を建て、も夫丈け鯧は獲れませぬから無駄な費用が多い、何れ向ふでは諸所に少しく獲れる所でも、極く輕便にして小さい装置に爲し、さうして各所で以てやつて居る、日本では一ヶ所では取れないから態々遠方から買つて來てやる、随つて鯧が多いにも拘はらず値段が高いと云ふことになる、日本では諸々方々に鯧が獲れるから諸々方々へ鯧の獲れる高を計て小製造所を幾箇所にも拵へて獲れる時丈け製造して後は閉鎖するやうに設備も簡單にして漁獲高に適する設備をなすにあり、また向ふでは罐を拵へる人が一の分業になつて居る、即ち製罐所と云ふものがあつてドンク罐を拵へる、そこで罐詰業者が罐の流行と云ふやうなことを考へ、今年は角型にしてやらう、或は長型にしてやらう、或は又物に依つて是れは長型にせねば可かぬとか、斯う云ふ型でなければ可かぬとか云ふことを考へ、さうして製罐所に頼むと云ふ

ど、スツカリ其の型の罐を仕上げて呉れる、其の製罐の技術と云ふものが非常に進んで居る、日本では何も彼も皆一手でやらうとするから比較的罐が高價になつて居る、即ちさう云ふ豫備工業が整頓して居らないからして、何うしても價格の高いのは免かれない、夫れから人の不熟練です、ボルドーの如きは其の土地の人が皆小さい時から罐詰業をやつて居るから技術が餘程進歩して居る、恰も大阪の松屋町あたりで駄菓子を作るのと同じく、チャンと人が器械的に働いて居るやうに熟練して居りますやうです、日本ではまた夫程迄に職工が熟練しては居らない、随つて技術が発達しないで、今日日本の鯷の油漬は最早絶望であらうと言ふ人もあるけれども、それは決して絶望ではない、其の之れをやる方法がもう少し熟練さして來さへすれば必ず輸出を進めて行くと云ふことは明らかなる事である、是れまでに見本は大分出して居るのであつて、歐羅巴と雖も亞米利加と雖も日本の鯷が善良なるものであると云ふことは確かに認めて居る、たゞ是れからは製造の方法を良くしてやると云ふこと、夫れから成るべく材料なり、工賃なりを廉くして、彼れと對抗の出来るやうに仕やうと云ふ考をさへ持つ

て行けば、此の鯷の油漬と云ふものは將來必ず一の重要産物となるに違ひない、尤も今日は不景氣のためにズツと沈静して居るけれども、早晚此の事業が発達すべきことは疑はざるどころであり、要するに尙多少の時日を貸して技術の熟練すると共に販賣上の研究を積んで商賣の點に於て成功するに至つたらば、決して外國品に譲ることのないことを信じます。

先づ一番私が希望する白人向の輸出品としては此の鯷の油漬です、鯷は一番に産額が多いから日本では之れを一番に多く遣らねばならぬ、鮑の如きは將來清國人に向つての一手販賣ですから打棄て、置いて行くでせう、夫れから第二は蝦です、此の蝦の罐詰と云ふものは年來之れをやつて見たのですけれども、何うしても一種の硫化物があつて、鍼力が悪いと云ふと硫化鐵が出来て眞黒になると云ふ弊がある、是れは日本ばかりではない、亞米利加でも歐羅巴でも此の弊があつて、今に其の原因が発見されない、夫れで四五年前に英領加奈陀の議會に於て蝦蟹の黒くなることを研究して貰ひたいと云ふことが問題となり、或學者の研究したことが報告に出て居る、併し折角研究をしたけれども結果が出ない、

是れは其の品質にも因るかも知れませぬが、又製造の技術にも因りませう、夫れに就て御承知の如く速に發達したのは北海道の茨蟹である、是れは一昨年が初陣の輸出であつて、一寸五拾萬圓ばかりも出た、昨年は七拾五萬圓ばかりの輸出額になつて居る、是れは誠に咄嗟の間に輸出して居る、是れくらゐ長足に罐詰も輸出するやうになつたら愉快なものでせうが、此の茨蟹くらゐ早く輸出の進んだものはない、是れは今日は亞米利加人より外には餘り行かない、亞米利加に於てはロブスターと云つて、蝦と蟹との間の子のやうなものがあつて、是れが最も亞米利加人が珍重する罐詰である、併し向ふでは材料が盡きるからと云ふので、國家が保護をして、之れを取らさぬやうにした、夫れがために亞米利加では他のものは何でも重税であるが、蝦と蟹だけは無税である、其の無税と云ふのが日本より亞米利加へ之れを出して他の罐詰よりも利益なるところである、蟹罐詰に付ては製造者にも販賣者にも組合を設けしめて輸出の検査をすることを勧めてをります、製造が進むに隨ひ品物がよくなり、日本は日本の茨蟹は色から味まで能く似て居る、夫れがために向ふではロブスターの代用になつて居ります、又た

此の蟹と云ふものは殆んど日本の專賣です、何所にも居らない、英領加奈陀あたりでも前には蟹の罐詰をやつてをります、それは日本のカサメと云ふ蟹の類にて茨蟹とはちがつてをります、斯く蟹罐詰は日本の專賣になつてをるので、横濱あたりの賣込商と云ふものも初めは四人か五人であつたが、今や種々の商賣人も手を出すやうになつて蟹罐詰の輸出商は日本人ばかりでなく、横濱在留の外商の重なるものまで手を出すやうになりました、今日蝦がポツ／＼出掛つたから、是れから後は蝦が出ると思ひます、そこで蝦としても蟹と同じことで先づ第一に鍼力は非常に上等なものを使はねばならぬ、即ちチャコールと云ふ一番上等の鍼力を使はねばならぬ、さうして蝦も矢張り蟹の通りの取扱をせねばならぬ。

そこで本年ポツ／＼出て居る蝦にして一番餘計に獲れて居るのは根室の蝦です、此の邊の芝蝦とは少し形體が違つて居る、色は黄ばんで居つて又非常に赤い、夫れを本年は三百函も出して居る、未だどうも需要がハッキリせぬと云つて居るけれども、兎に角出るやうになつて居る、そこで此頃は長州の三田尻徳島あた

りでも造り掛つて居るが、内海の蝦なら極く上等のものが出来ませう、米國ではニユウヲレンスの蝦が一般に良いと云ふことになつて居る、然るに根室の蝦は色が赤くなつて居りますが、味は誠に能く似て居る、夫れだから根室の蝦が良いことは良いけれども、色が赤く過ぎ、肉は硬く過ぎると云ふ非難がある、此の共進會に出て居る碓井勝三郎さんの罐詰が昨年多少輸出したさうで、此間一寸観て見ますと、これもなか／＼良く出来て居る、けれどもニユウヲレンス産に較れば、肉が少し硬い、夫れですから内海の蝦から見ると少し値が安い、是れは必ず蟹に伴うて物になるだらうと思ふ、ところで其の製造と云ふものは日本の大和養を造るやうな亂暴なことをやつては逆も可かぬ餘程清潔にしてやらねばならぬ、此の蝦蟹の製造と云ふことは非常に細かい所に注意を要する、是れはマア兎に角物になつたと私は考へて居ります。

夫れから蟹の次は蠣です、此の蠣は御承知の通り亞米利加にもある、即ち太平洋岸にもあり、太西洋岸にもある、此の亞米利加の蠣は皆さんも必ず罐詰か何かに依つて御覽でせうが、日本の蠣とは違つて、丁度蛤の肉のやうです、眞白で、介の柱

が中央になつて、ぐるりの盲腸が極く少ない、一寸見ると蛤では無いかと思ふやうで、夫れで肉が硬いものだからして、罐詰にしても決して日本の蠣のやうには崩れない、之れに反して日本の蠣はみな盲腸が多いから、罐詰にすると肉が溶ける、さうして日本のは青色をして居る、向ふのは白い、是れはマア先年から廣島あたりでも大分によつて見たが、どうも未だ要領を得ない、ところが近頃ポツリポツリと蟹が出る、蝦が出る、夫れに伴ひまして白人も日本の罐詰に幾分か信用を置くものと見えて、蠣の罐詰もポツ／＼註文が来て居る、二三年前廣島から、生蠣を送つたけれども、どうも船の上での工合が悪かつたと見えて、九分通りまでは死んで、漸く一分だけが残つたくらゐるのである、此頃も蠣の罐詰と云ふことに就ては廣島でも研究をやつて居ります、是れは蝦蟹のやうに高い價格は出まいと思ふけれども、マア將來の輸出物としては面倒なもので、なか／＼大和養や福神漬でやど認めますが、是れ又罐詰としては面倒なもので、なか／＼大和養や福神漬でやるやうな譯には行かぬ、第一に蠣と云ふものは、是れは少しく技術上に涉るかも知れぬけれども、海から取つて来て直ぐにやつては可かぬ、佛蘭西でも何所でも

チャンと此の方法でやつて居る海から獲つたものを直ぐに罐詰にすると味が悪い、必ず河の淡水に一週間ぐらゐは漬ければならぬ、さうすると淡水のために苦しいからして内部の潮を皆吐いてしまふ、と共に泥も吐き且つ肉が白くなつて肉も締つてきます、夫れを罐詰にせねばならぬ、然るに海から獲つて来て直ぐにやるから味も悪い、又少しく苦味を含み泥も合てをります、又鱈は三年以上のものでないと可かぬ、夫れに今までは鱈の年齢も調べずに一年のもある、二年のもある、三年のもある、一年と云ふやうな若いものは直ぐに崩れてしまひます、畢竟言つて見ると皆我々の不注意であつた夫れでマア此の鱈は必ず行くものと私は考へて居ります。

夫れからもう一ツ日本の産物で残念なのは北海道の鮭、鱈である、是れはマア御承知の通り非常に今産額は減つたですが、従来は非常に産額の多いものであつたです、種々罐詰等に拵へて、イヤ歐羅巴にもやり亞米利加にもやつた、けれども到頭要領を得なかつたです、其の要領を得ないと云ふものは、丸で鮭、鱈の質が日本のと彼方のとは違つて居る、向ふでは紅鱈と云ふ、是れでないと可か

ない、日本のは夫れでない、然るに日本の鮭を其儘頻りに拵へてやつたから、日本の鮭は眞白い、と云つて少しも珍重する者が無かつた、ところが露領沿海州に於て日本が漁業権を得たからして沿海州への出稼が多くなつて来た、あの邊から勘察加の東の方には彼のレットサーモンと云ふものが獲れる、併し従来は餘り長期の借用権が無いものですから、何うも腰を据ゑてやる者が無かつたが、昨年漸く勘察加から東の方でやつて拵へて見た、此のレットサーモンを造つて見ると、亞米利加のもの少しも異らない、立派なものです、味から色まで異らない、で之れを一ツ昨年フレザー商會に托して、英國と濠洲へやつて見た、即ち今までの鮭の販賣に懲りたから、是れは一手販賣が宜からうと云ふので、フレザー商會に托してやつて見たのである、ところが果して好評です、併し昨年は漸く三百函しか造らない、之れを見本として皆遣るが宜い、一函でも金を取ることはならぬぞよ、三百函皆捨て、しまふなら凡そ模様も分るだらうと組合にも嘯しました、此頃香港の商務官青木君から取敢へず百函ばかり賣つては何うか、香港と云ふ所は東洋廻りの汽船の食物庫となつてをる之れにて集散する食料品と云

ふものは非常なものである、此所へ来て居る罐詰は何所からかと云ふと亞米利加の紅鮭が大變に這入つて居る、日本の品物と殆んど異らない、夫れで是れは賣込問屋から販賣の契約をしやう、香港着九圓五十錢なら確かに買はうと云つて居るが、いま亞米利加のは十一圓内外である、が幾分か日本のものは下げて賣らねばならぬ、且つ商標を拵へて、夫れには日本と云ふ文字を全部省いて、たゞレットサーモンと、沿海州産として呉れと言つて居ると云ふことでありました、如何にも能く考へて見ると露領沿海州産であるから日本産では無い、それでたゞ沿海州産として、さうして其のレットセルも香港政廳の登記を得たいと云ふことである、いま商標について交渉中です、其のレットセルが向ふのと少しでも擬似するやうになると商標侵害となりますから、向の云ふやうにはゆかぬ商談がまじまじれば月に三百兩は賣ると云ふとを問屋から言つて来て居る、沿海州の組合でも、本年はもう一層盛んにやるはずです、本年は二ヶ所に於て五千兩までは拵へると云ふことになつて居る、夫れでフレザー商會の方も倫敦から注文がある、是れも香港と同じく、レットセルを亞米利加に真似て拵へて呉れと云ふことであるが、

併し商賣に勝ちさへすれば名義は何うでも宜いからと云ふので、今頻りにやつて居る、御承知の如く彼の沿海州は借用期限が五ヶ年くらゐであるから立派な設備をしても經營者が變れば困ると云ふけれども、後の經營者が其の事業を繼續してやりさへすれば差支へないではないかと云ふので、そんなに大きな設備さへせねば宜い、併し紅鮭、即ちレットサーモンと云ふものは日本向へ鹽を爲して持つて來ると値が却て下がつて居る、如何にも鹽物としては餘り良くない、夫れだから實は今日現在の儘では沿海州あたりの紅鮭が甚だ面白く思はぬくらゐであるから罐詰にして輸出が出來ると云ふことになつたら却て利益のみならず確かに前途有望の罐詰と考へて居ります、兎に角組合が繼續してさへ行くならば、段々此の事業が發達しやうと思ふ。

夫れでマア輸出罐詰と致しましては、鯧を初め今のレットサーモンと蟹、蝦、夫れから蠣ですが、蠣はまだ解決がハッキリ着かない、本年は大分に桑港の北米商會が骨を折つて居るから多少は行くだらうと思ふ、まう罐詰は斯う云ふものに着眼すべきものであります。

夫れからもう一ツ私がやつて見たいのは鯖の罐詰です、此の鯖の罐詰と云ふものにも油漬とオイルとの両方がある、佛蘭西は最も鯖の罐詰を珍重して居る、是れは皆オリブで漬けた油漬ですが、日本では其の數量が餘り餘計に出來ない、それから亞米利加でやるオイルと云ふものです、是れが何うやら宜さうですけれども、是れ又なか／＼餘計に出來るか何うかと云ふことが分らない、且つ鯖と云ふものは近頃鹽鯖が亞米利加に出たがつて待つて居るが、何分地元日本の値段が高いために出来ない、けれども鹽鯖と云ふものは此後非常に出るだらうと思ふ、此の共進會に但馬から出品してあるのがある、あゝ云ふ製造法を亞米利加人が非常に珍重して居る、從來私共も諸方でやらせて見たけれども、何分第一に鹽が悪い、夫れと鯖を餘計に買ふと地元の値段が高くなるために成功しなかつた、けれども是れが発達すると随分に行かうと思ふ、是れは今日のトマト漬と相對して將來の一の輸出品であらうと考へます。

夫れから小さい鰯の油漬である、是れは又日本でも六七月頃になれば澤山に獲れる、此の罐詰は佛蘭西あたりが主である、考て見れば向ふで罐詰にするものにして日本に其原料の無いものは殆んどない、其の邊を考へて見ると、日本の罐詰は必ず段々行かねばならぬ、又向ふには拂底で、日本には多くあるものもある、種類も同じものがある、けれども行かないものが澤山に在る、是れらは如何にも残念でならぬ、鰯の油漬も適當の方法を施してやれば必ず將來は出るであらうと思ふ。

もう一つ夫れに次いで行かうと思ふのは鮪の油漬です、此の鮪の油漬は佛蘭西が本場である、是れは需要が餘り廣くないと云ふことで、私共の方では餘り進めなかつたが、近頃は亞米利加の紐育などから餘程望を屬して來て居る、紐育の食品の間屋から頻りに鮪の油漬を拵へて呉れと云ふことを言つて來て居る、夫れがために此程も見本として和歌山と長崎との方で造つたものを送つてやつた、併し同じ鮪でも此邊で喰べる普通のキワダとかトンホとか云ふやうな赤い方よりも、カジキ鮪と云ふ、眞白の肉の方を好むやうです、これは肉ばかりを切つて燻ひきて罐に入れ、さうしてオリブ油を指したるものである、向ふでは之れを非常に珍重して居ります、夫れで對州あたりでもポツ／＼之れをやりたいと云

つて計畫して居る、是れも佛國、伊國にて多く嗜好し、米國人は喰はないと思はなかつた、斯く注文をして來て居る所を見ると將來は必ず米國にも行くだらうと思ふ、米國の間屋からは兎に角見本を送ってもらいたい其上にて改良する點もあらば示すことにしやうからと云ふことです、畢竟亞米利加人には、日本は勞銀が廉い、何魚でも安價なものだから夫れだからたいのやうなものであらうと云ふ感じがあるために、尙更日本の物は高いと云ふ小言が多い、ところが成程鰯は肥料にするかも知らぬけれども、日本では鰯でも一疋五厘、六厘、或は一錢もする中々亞米利加人や歐羅巴人の想像して居るやうなものでない、日本でも魚類が餘程不廉になつて居るが、兎に角鰯でも鮪でも是れからは罐詰にして尙は一層其の販路を擴めたいものであります。

夫れからもう一ツ私の大いに希望して居るものがある、是れはマア何うだらうかと思ひますが、夫れは向ふにもある、即ち鯡の罐詰です、英吉利などでも之れを罐詰にして居る、固より日本の鯡とは異つて居る、向ふの鯡は小さくつて脂肪がある、日本のは大きくして脂肪が比較的少ない、併し日本の鯡も他の輸出罐詰が

盛にならば必ず輸出することが出来はせぬかと考へます、日本の罐詰を喰つて見れば味も好し變たことはない、只だ向ふの人は日本の如き後進國の食品は實際彼れに勝て居ても氣は心で何か不味なやうな氣持がするからして不味とか何とか非難するも一度味はへば必ず食するに至る、故に食品の輸出は只だ製品のみならず、格好裝飾總て向ふの氣に適するやうにして専ら販賣上の研究を積み、て初めて成功するものなれば、當地の諸君も輸出入商賣には直接關係があれば何卒此邊の點に注意せられ、堪忍して罐詰輸出に従事せられん事を希望す。

今日は我國罐詰業者及販賣業者の爲に、將來に於ける商賣上の御參考として、是れだけのお話をして置くのであります。(拍手大喝采)

雜貨貿易に就て

農商務技師 野間 譽 雄 君

只今新田君から御紹介を受けました通り、私は農商務省に居ります野間譽雄と申す者でござります、實は今日茲に皆様の前に立ちましてお話を申し上げると云ふことは、少し前から分つては居りましたのです、夫れがために多少なりとも皆様の御参考になるやうなことをお話をしやうと云ふ考はありましたですけれども、實は此度この共進會に於て私の審査に關係して居る品物は種類が非常に多いのと、又點數が甚だ多いと云ふことのために、非常に忙がしくしてツヒ頭を捻る間がありませなんだ、漸く一二時間前に一寸約めたと云ふやうなことでござります、夫れと同時に私は實際外國貿易なるものに直接經驗をしたと云ふことは無いのです、それでありながら此の日本第一の貿易港たる神戸に於て而も雜貨貿易と云ふやうな題を出し、皆様の前にお話をすると云ふことは實に

嗚呼がましく、釋迦に説法と云ふやうな譏りを免かれませぬかも知れませぬが、たゞ私は斯う云ふ考を持つて居ると云ふことだけを皆様に御披露するくらゐでありませぬ、それも種々お話を申せば無いこともありませぬですが、大分に時間も遅くなつて居りますからして、たゞ極く要點だけを摘まんでお話をしやうと思ひます、暫時の間御清聽を煩はしたいのでござります。

夫れで此の雜貨貿易と云ふことに就いてお話をするのであります、が、雜貨と申しますれば非常に範圍の廣いものでござりますので、それを一々其の品物に就てお話をして居りますれば、到底二時間や三時間では盡せませぬ、それと又此度の共進會に於て、私が審査に關係した品物に就て多少批評を申し上げても、尙ほ其の種類が多いために一二品を擧げてお話をするよりも、却つて概括的に此の雜貨貿易と云ふことにつき、私の考を持つて居る所だけを述べた方が宜からうと思ひますから、ツヒ僅かばかりのことを申し上げることに致します。

さて日本の輸出貿易でござりまするが、是れは諸君も御承知のやうに、近年長足の進歩を仕まして、既に四億圓以上になつて居るやうな次第でござりまするが、

此の四億圓を超過して居るもの、中で、重なる品物は何う云ふ物であるかと申しますと、第一に生絲、綿織糸、羽二重、茶、石炭、銅、其他木材類と云ふやうな品物である、是等の品物は原料品、或は原料用製品であります、原料用製品とは原料に使用爲に多少加工したものでござります、さうして今挙げました七品は何れも壹千萬圓を超過して居るのであります、其他に加工して其儘使へる品物、所謂全製品なるものには一ツ燐寸がござります、此の燐寸は壹千萬圓を多くは超過して居りますが、又壹千萬圓に上ばつて居ない年もあります、先づ壹千萬圓を超過して居る、それで此の原料品なり或は原料用製品の輸出と云ふことも、固より我々は大きいに望む所ではござりますけれども、併しながら夫れよりも尙ほ一層望まなければならぬのは、全製品でござります、ところが今申しますやうに此の全製品としまして、たい壹千萬圓以上を超過するものが燐寸一ツと云ふのは甚だ心細い感じが致しますのです、それで此の原料品なり或は原料用製品と云ふものは固より多くの輸出を望むべきものではござりますけれども、併し私の考では全製品なるものから比較すれば、是等の品物は危険なやうに考へますのでござります。

ます、何故かと申しますれば、譬へば茶、生絲等は全く氣候の關係に由りまして、時には是れだけのものを得やうと思つても、夫れだけのものは得られないと云ふやうなときが無いとも限りませぬ、即ち氣候に左右せられる所が多いものでござりますから、全製品に比較しますれば、多少危険と云ふと少し語弊があります、かも知れませぬけれども、今の原料品なり或は原料用製品よりも有利なる所の全製品を望むことは、私が申すまでもなく皆様の特に御承知の所であらうと思ひます。

夫れで外國貿易の状態を能く調べて見ましても、英國なり、獨逸なり、佛蘭西なり若しくは亞米利加に任ましても、此の全製品と原料品との輸出の割合とは非常に全製品の方が多いのでござります、是れは日本などに比較すれば、段が非常に違て居ります、これに就て私は極く詳細に日本と諸外國との比較調査をしたものもありませんけれども、只今其の書類を持つて居りませぬから、数字的に説明を申し上げることが出来ないのは甚だ遺憾でござりますけれども、兎に角歐米諸外國の全製品なるもの、輸出は、原料品或は原料用製品よりも非常に多い、即

ち日本は歐米諸國に比して著しき懸隔があるのござります、それで此の雜貨と云ふものは所謂全製品の多くの部分を占めて居るものでありませうが、其の雜貨が今日の日本の状態に於ては最も何れの國を目的として輸出の發展を圖らなければならぬかと云ふと、歐米は無論のこととござりますけれども、夫れよりも東洋方面、即ち支那なり或は印度と云ふことが今日の最も緊要であらうと私は考へます、此の點に於ては皆様も御賛成のことであらうと思ひます、のでござります、そんならば何故支那なり或は印度方面に對して我雜貨の輸出を第一の目的とする、且つ夫れが最も見込のある所であるかと云ふと、支那、印度は日本の品物に限りませず、總ての外國の雜貨なるものに對しての購買力が充分にある、尙ほ今日よりも將來に於ては澤山の購買力を持つやうになる、所謂餘裕があるのとござります、それに就て我日本は東洋方面、即ち印度、支那等に對して最も有利の地位を占めて居るのである、其の有利の點と云ふのは種々ありますけれども、所謂距離の近いと云ふことが第一の要點である、其他にも種々ありますけれども、夫れは一々申し上げませぬ、第一には距離の近いこと、即ち運賃問題と云ふこ

とであらうと思ふ、此の運賃の關係に依り、日本商品の價格の低廉と云ふことが出来るのでありますから、此の點に於ても最も支那なり印度なりの方面に對しては將來此の雜貨の輸出に盡力すると云ふことが甚だ必要であらうと私は考へるのでござります。

それならば此の印度なり或は支那の方面に對して雜貨なるものゝ輸出を擴張する方法は何う云ふ點にあらうかと申しますれば、是れには種々の方法もありませうけれども、第一は支那なり印度なりに於ける所の雜貨、之れに對する嗜好の點は何れに在るかと思ふことを研究する必要があると云ふのでござります、これはもう私が申すまでもなく、能く御承知のこととござりませうけれども、其の嗜好を知りまして、夫れに能く適合する所の品質なり意匠なり形狀なりに就て相當なものを造ると云ふことが最も必要とござります、其の嗜好を見て彼方に向く所のものを造ると云ふことはたゞ座ながらにしては到底出來ない話とござります、これは實際其の所に參りまして充分に研究を要することであらうと思ひます、其の實際を調査すると云ふことに就て、人を東洋方面に派するこ

どは個人としては甚だ六つかしいやうなことでござりませう、併しこれは費用も左程要する譯でもない、殊に組合などから人を出しますれば、左程の金を投ずる譯でなくして夫れが爲に販路の擴張と云ふことには非常な効果があらうと思ひます、兎に角實際に人を派して彼方の事情を能く調査し、さうして夫れに適當する所の品物を造ると云ふことが第一の要素で、これは能く人の言つて居る話でありませうけれども、何うも未だ充分に其事が行はれて居らないやうでござります、譬へば亞米利加の如きは、少し大きな商店に参りまして能く其店の遣り方を研究して見ますると、多くの店は自分の店員を各地に派遣して居りまして、さうして其の人をして充分其土地の風俗なり、或は嗜好と云ふやうなものを研究せしめる、そこで其人が夫等のことを自分の本店に通知し、さうして始めて品物の製造に掛ると云ふやうな風に大抵の所ではやつて居るのでござります、併し日本でも或は外國に支店を持つて居る、或は出張所を持つて居る所の人はさう云ふやうな事も出来ませんが、個人的の商會の如きは夫れが甚だ六つかしい、兎に角日本人はさう云ふことをやつて居ないのが多いやうに考へられるですが、

是れは最も必要なことであらうと思ひます、向ふの意匠なり、嗜好なり、或は風俗等を能く研究しまして、夫れに適合する所の品物を造りますれば、固より其の商品の賣行が宜からうと思ひます。

併しながらそれだけのことをして、たゞ向ふの嗜好に投ずるものを造つたばかりでは、此の貿易輸出と云ふことも未だ以て充分の効力がありませぬ、殊に雜貨に至りましては、私の考へる所に依れば何うしても此方からして意匠なり、形状の新らしい品物を造ると云ふことが必要である、それは一度今のやうにして向ふの嗜好を探り、さうして夫れに對する品物を造つて賣り出し、その需要が開けたならば、又暫く經ちますると、それに應じて多少の變更をする、意匠なり、形状に對しまして其の土地の嗜好を離れない程度に於て、前のものとは成るべく變化された所のものを造つて、新らしき需要を喚起すると云ふことが最も必要であらうと思ひます、これは他の原料品なり、或は原料製品とは違つて居りますから、其の點に注意をすることが甚だ必要ではなからうかと思ひます。

尤も近頃日本の内地でも往々さう云ふことが行はれて居ります、譬へば東京の

三越の如きは歐米の流行を探りまして、種々新流行を促しつゝあります、それで我國の商人も亦向ふの嗜好に投ずるからと云つて、何時までも同じものを守つて居ると云ふことでは甚だ面白くない、或は向ふから意匠を變へて來る、夫れを待つて居つて此方で造ると云ふことでは充分なる發展が出來ない、此方からドシ〜進んで新しい意匠、形状のものを造り、向ふの嗜好に投じさせやうと云ふくらゐの、所謂積極的に進んで行かなければ効力が無いと思ひます、獨逸の如きは専ら斯う云ふ主義を採つて居るのでござりまして、現在我々が獨逸から日本に來て居ります輸入品を見ましても、年々同じ羅紗なら羅紗にしまして、其の模様が變るとか或は縞柄なり絲の織方を變へるとか云ふやうに、能く日本人の嗜好を呑み込んで、さうして其の嗜好に投ずやうなものを造る、又來年は夫れと異つたやうなものを考へ出すと云ふやうに、此方から進んで變へて行くと云ふことに仕なければ雜貨の輸出は甚だ發展の仕難いものであらう、さう云ふ風にして毎年段々新しいものを出さなければならぬ、同じ品物をば四年も五年も續けて送ると云ふことでは却て段々輸出が少なくなるばかりであると思はれます。

す。

彼のドロソークにしまして、御承知の通り多くは横濱のサイモン商會等が頻りに之れをやつて居りますけれども、これは亞米利加にサイモン商會の支店か本店かありまして、其所で何う云ふ意匠なり圖案のものが適當して居るかど云ふことを能く探究し、夫れに向くやうな意匠を拵へて來る、さうすると横濱のサイモン商會はそれに依つて加工をさせ又は其れを基として種々工夫したる意匠のものを製作して輸出して居ります、其の賣行が非常に良いことになつて居ります、日本でもさう云ふやうなことを造つて居られる人も現に在りませんが實に僅かな人で、多くの人はさう云ふことまでやつて居られない、たゞ亞米利加なら亞米利加又は支那なら支那に向つて、新意匠のものを送つて居る、夫れが非常な好評を得て、多く輸出されるときに、初めて我同業者がそれを知り、さうしてその製造に着手をする、そこで其の品物が出來まして、漸く持つて行く時になりまします、もう既にそれが流行後れになつて、新しい品物が出來て居ると云ふやうな風に見受けるものも現に在るのでござります、是れは品物に就て一

一彼は申し上げる必要もござりませぬが、兎に角現にさう云ふ事實もあるのでござりますから、向ふの風俗なり嗜好なりを能く探究しまして、それに應ずる所の品物を造ると同時に其の品物を翌年なり、又其の翌年なりに變へて行つて此方から向ふの新しい需要を喚び起すことが此の雜貨貿易としては必要であらうと信じます。

夫れで御承知のやうに、近頃は東洋方面に對してなり、或は英米等に商務官を派遣せられ、彼方の風習嗜好或は商業等に對しても種々の報告があつて、非常に都合が好いことにはなつて居りますけれども、併しながら一人や二人では色々な種類を持つて居る所の雜貨に對して總てのことを巨細に報告さるゝことは到底不可能であらうと思ひますから、今のやうに組合の方で人を派遣されることゝが緊要であらうと存じます。

尙ほ茲にもう一ッ人を派遣せられると云ふことに就て適當な方法であらうと思ひますのは、御承知の通り農商務省に實業練習生とて實業練習の爲めに海外に渡航する者に補助費を支給することがござりますので、これは私は先刻新田

君からお話になつたやうに、目下商品陳列館が本務でござりますけれども、兼務として多く商務局の商事課と云ふ方の仕事をして居りまするが、其の商務局の商事課に於て實業練習生の事務を取扱つて居ります、是れは日本の實際の商業家なり工業家が、商業なり或は工業なりの實際練習に行かれるのに對して、多少の補助金を支給することになつて居ります、固より澤山に人を出すことは出来ませぬが、斯う云ふ人が練習旁々東洋方面に多く行かれました、さうして彼方の事情を能く探究される、即ち組合なり其他の所に自分の研究し或は探究した所の報告をせられて、さうして貿易の練習旁々彼方に向くやうな品物を造ることに盡力されると云ふことは今申しました彼方の實際の風俗嗜好等を探る所の一の便宜にならうと思ひます、殊に商務局ばかりではない、所謂農商務省としまして、近頃は支那なり印度なりの東洋方面に於て最も力を盡さうと云ふやうなことになつて居る、又現に力を盡しつゝある際でござりますから、今の東洋方面に對する實業練習生の希望は、必ずや或程度までは之れを達することが出来るであらうと思はれます、是等も今申しました組合なり、或は個人にて若しも人

を派遣せられると云ふやうなことになるますれば、多少の補助金を政府から支給されることをござりますから、即ち夫れだけの便利は得られることであらうと思ひます。

詰り今申しましたことは、貿易發展の一の方法であらうと思ひますが、第二には見本を携帯して注文を取ることでござります、是れは日本の人にも多少はありますかも知れませぬけれども、我々は能く此の内地に於て外國人がやつて居るのを見受けますのでござります、外國人あたりは是れが甚だ有効なる貿易發展の一として居ると考へて居ります、現に今申しますやうに、外國人で種々なる見本を携帯して來まして、さうして彼方此方で注文を取つて歩いて居るのがあります、これは雜貨に多いのでござります、雜貨と申しまして、譬へば時計なら時計の種々なる形状のもの、或は金なり銀なりニッケルなり、種々異なつたものを三十箱も四十箱も持つて來て、さうして彼方此方を廻つて居るやうな方法を行つて居りますが、是れなどは最も好い方法であらうと思ひます、隨分農商務省に於ても試賣と云ふやうなことをする、即ち農商務省が當業者から頼まれて領

事館等に物を送り、此の品物は其の方面に向くかどうかと云ふことを調査して貰ふこともありますけれども、併しながら單に夫れだけでは充分の満足を得ることは六つかしいであらうと思ひます、何故と云へば、今見本を携帯しまして、さうして注文を取りますれば、先きに言つた通り人を派するとして、風俗人情等を觀察することも出來ますし、さうして夫れに對する注文を取することも出來ますが、此の方法は總ての商品に對して適合しませんが、殊に雜貨貿易に對しましては最も有効なる方法であらうと思はれます。

夫れから第三に申し上げたいのは、價格の點でござりますが、現に支那なり印度なりへ多くの日本の雜貨が參りますことは、價格の低廉に依つて歐羅巴なり或は亞米利加の品物と競争しまして、夫れに打勝つことが出来るのでござります、若し價格が少し高ければ固より歐羅巴の品物なり、或は亞米利加の品物に打勝つことは出來ませぬ、譬へば印度に於ける莫大小なり、或はタオルの如きは、今まで獨逸品なり、或は印度品なりが、其の印度に於て非常に跋扈して居つたのである、然るに日本の品物が行きまして、殆んど外國品を驅逐し、今日莫大小の如きは

日本品ばかりであるやうになりました、其他絹物類も價格の點に於て、總て日本品が獨逸品なり英吉利品なりを驅逐すると云ふやうなことになつて居りますのは、詰り日本の品物は品質に應じて價格が低廉であると云ふことに歸着するのであります、併しながら此の價格の低廉は、前に申し上げましたやうに、日本からして印度なり支那方面に對して運賃の廉いと云ふことが非常に大いなる部分を形造つては居りますけれども、獨逸なり其他の國は日本との競争上、價格を低廉にするこの爲に、種々方法を盡して居るのでござります、それは日本の工賃が低廉なりと云ふことの代りに、獨逸等に於ては成るべく機械を利用することをやつて居ります、成るべく機械力を應用することのために、非常に其の品物が安く出来る夫れで競争をして行かうと云ふやうなことになりますので、これに就て日本の商人が餘程考へなければならぬ點であらうと思ひますのは、譬へば今まで日本からして多く輸出されて居りました紙製のナブキンであるとか、或は漆器に就ても獨逸に於て機械的模造品をドン／＼製造するやうになる、其の獨逸品の爲に壓迫されてしまつたことは諸君も御承知の通りでござります、

是等は最も考慮を要すべき點でござりまして、成るべく價格を低廉にしなれば、支那なり印度なりの商業は到底獨逸なり亞米利加と輸贏を争ふ、即ち競争に勝つことは六つかしいであらうと思ひます、それで往々其の價格を低廉ならしむるために、人の能く言ふ粗製濫造と云ふことが行はれるのでござります、併し品質を下して價格を低廉にすると云ふことならば、何の効力もありませぬ、品質を下さなくして價格を低廉にすることが最も必要であつて、又それを仕ますのには種々の方法もありませう、譬へば運賃の低減の如きは最も其の主要なる方法でござりませう、殊に雜貨等にしまして、今まで日本人は多く手工をやつて居つたけれども、此後は或程度まで機械力を應用すると云ふことが必要であらうと思ひます、其の機械力を應用することは御承知のやうに現時日本では水力電氣の如きものが非常に發達しまして、到る所に電氣事業が行はれて居ります、田舎の邊鄙に行きましても、電氣の無い所はないくらいにまで發達して居りますので、此の水力電氣を應用する、即ち今まで日本人が手工を以てやつて居つたことを、此の水力電氣を以てやる、マア極く小さいモーターぐらゐを置きまして、

夫れに代らせると云ふことが必要であらうと私は思ふのでござります、如何に日本人の工賃が低廉でありましても、これは段々高くなりつゝあるものであつて、到底工賃の今後低くなることはないのでござりますからして、それで商品の品質を下げなくして、支那なり印度なりに於て價格を低くすると云ふことは、今まで手工であつた所のものをば、或程度まで、即ち出來得べき程度まで機械力を應用することが最も必要なことでありますので、これは雜貨に就て殊に然るべきものであらうと考へられるのでござります。

それで尙ほ種々お話をすべきことも澤山にござりますけれども、大體今日は責塞ぎと云ふやうな積りで、甚だ詰らないことを申し上げまして、諸君の貴重な時間を費したのは謝する所でござりますが、終りに於きまして實業練習生と云ふことにつき、一寸一言だけお話をして置きます、此の實業練習生と云ふのは、資格は中學卒業程度以上でござりまして、中學を卒業或はそれと同等な學校卒業して練習の科目の事に一ヶ年以上實地に従事したる者若くは技術練習にして其技術の専門學校を卒業したるものは一ヶ年の實地經驗を要せざる事ある者か

ら試験に依つて採用することになつて居りました、多くは毎年一回づつです、時は決まりませぬけれども、今までの例に依りますと八月頃に試験をして居ります、其の試験は普通今までの例に依れば、目的地の語學と練習の目的の事に對しての實力の試験、日本の文章、即ち作文々らゐる、願書は何時提出されても宜しいことになつて居りますが、詳しいことは農商務省商務局の商事課宛でお聞きになりますればお話をします、又其の實業練習生に對する規定と云ふやうなものもござりますから、商務局の商事課に宛て、葉書でもお出しになりますれば早速送ることに致します、是れは固より御承知の人もあらうと思ひますけれども、まだ初めてのお方もありませうから、茲に一言申し添へて置きます、拍手大喝采 (完)

我化學工業の狀態^及化學製品の貿易

七八

農商務技師 莊司市太郎君

本日は彼所に掲げてある題の下にお話を申し上げますのでござりますが、前以て一寸お断り申し上げて置きますのは、時間が餘り長くないさうでござりますから、化學工業と申しましても非常に廣い意味でござりますし、尙又化學製品と云ふことになりますと、幾百幾千になりますから一々お話を申し上げますことは出来ませぬが、今回私が當地に参りまして、此の共進會に並んであります物の中自分の分擔した物に就て主としてお話を申し上げますから、其お積りでお聽きを願ひたい。

總て何れの種類を問はず工業の發達を期すると云ふことに就きましては、總ての工業が何れも同じやうな發達をしなければなりません、詰り同じやうに發達して來ませぬと、獨り或は化學工業或は機械工業と云ふやうに、特殊にそれが抽んで、發達すると云ふことは到底出来ないのでござります、それで殊に此の日本の化學工業と云ふのは御承知の通り最も各工業の中に於ても一番に遅れて居る工業でござります、現在日本の化學工業と申しますると至つて程度が低くして、さうして、又至つて操業法も程度が低いのでござります、畢竟此の化學工業の程度の低いと云ふことに就きましては種々原因がござります、之れを今世界に於ける一番優秀なる位置を占めて居る化學工業國の獨逸と比較して一ッお話を申したいと思ひます、概算して日本の化學工業より生産する所の其の價格は約五億圓であります、是れは一寸註釋を入れて置きますが、茲に私が化學工業と申しますのは非常に廣い意味でござりまして、尙も其の製品を造る間の何れかの工程に於て、化學變化に依つて其物が拵へられたと云ふ品物を總て化學工業と申しまします、其高は大凡五億圓はと見ましたならば大差がなからうと思ひます、然るに此の五億圓の價格を有する化學製品は如何なる物であるかと云ふことになれば、前以てお話を申しましたやうに非常に廣いので幾千と云ふ數に上りますから其の製品は一々茲にお話を申しませぬが、此の

七九

五億圓と云ふ金額は非常に澤山のやうに考へられますけれども、今御紹介しました獨逸の化學工業に比べますると非常に低いものである、お聞き及びでもござりませうけれども、此の獨逸の化學工業と云ふものは非常に發達して居りまして、獨逸の現在一ヶ年に化學工業より得る純益と云ふのは、丁度日本の此の五億に相當して居るのでござります、それ故に獨逸の化學工業の生産高は幾十億圓に上ばつて居ります、即ち日本の全體に出來まする五億の化學工業の製品高は獨逸の化學工業に取つて見ますると、其の全額が純利益に相當すると云ふ有様でござります、然らば何故に日本は斯の如く化學工業が萎靡振はないかと云ふと、其の原因は非常に澤山にござります、無論此の日本と云ふ所は金も少ない、随つて金利が高いと云ふやうな關係から、先づ多くの人の放資するものは成るべく早く利益を得られるやうなもの、或は又近き將來に利益の見込のあるものに對して放資を致しまするから、何うしても込み入つた、而も複雑な技術を経なければ出來ぬと云ふやうな化學工業は何れも後廻しになつてしまひます、で總て此の化學工業の發達と云ふことが他の總ての工業に對しては、何れも後か

ら追ッ驅けて行くこと云ふやうな有様になるのでござります、其の金利の關係所謂經濟の方の關係を除きまして、それでは化學工業が何故に斯の如く日本に於ては不振であるかと云ふことに就ては、是れは私の一個の説でござります、一寸御參考までに其の原因をお話申したいと思ひます。

第一は日本に於ける化學工業の經營が甚だ拙いのでござります、それから又化學工業を經營する人の頭腦に於て技術を重んずると云ふことが非常に冷淡である、是れが第二の原因である、それから又經營者が其の自分の經營する仕事に對して餘りに智識の淺薄であると云ふことが第三の理由になりはせぬかと思ふ、第四と致しましては一の化學工業の極く根本になるべき所の其の化學工業の種類が他の化學工業に比べて最も發達して居らない、詰り基礎になる工業が發達して居らないために、其の枝葉の化學工業が榮えない、第五の原因と致しましては、自分の製品に出來得るだけ改良をする、出來得るだけ其所に發明力を集注すると云ふことを缺いて居る、第六の原因は自分の造る製品の販路と云ふことを充分に精しく知らないことと云ふことである、其他種々原因があります、先

づ此の日本の化學工業の經營及び其の製品を造り出すに就ての瑕瑾としては、此六ツが主なるものになりはせまいかと考へるのであります。そこで言を換へてもう少し詳しく註釋致しますれば、經營の方法が可かぬと云ふのは、是れは餘り詳しく申し上げますとお差支へがあるかも知れませぬけれども、大體此の化學工業と云ふものは、總て其の工場内に於ける所の作業の様は無論のこと、各作業の部分に分れた所の其の部分に於ける化學の變化までも能く心得て居る人がやらないと云ふと、常に其間に粗製が起る、或は不注意が起つた爲めに其の製品が出来上つてから甚だ拙い、然るに主たる經營者が製品の善悪の區別が細かに付かないそれがために其の製品が外に向つて充分の發達は出来ないと云ふことがあるのであります、それから技術に、重きを置いて居らないと云ふのは、是れは餘程此の六ツの原因中でも主なるものであつて、此の技術に重きを置かないと云ふことは、たゞ考へると非常にをかしく聞えるかも知れませぬけれども、之れを獨逸の例を引いて申し上げますと斯う云ふことになつて居る、總て此の製品と云ふものが出来るのには、一番主腦になるのは技術で

あつて、それに伴ふのは職工の技術である、ところで其の一例として申し上げます、是れは御承知の方が無論澤山にあらうと思ひますが、私が嘗て獨逸に居りましたときの事でござります、或一の工場に行きました、それは參千萬圓の資本を持つて居る大會社でござります、是れは何會社であつたかと云ふと、今茲に言つても差支へはございませぬ、即ちバイヤーと云ふ染料を拵へる所の工場でありました、所は西部獨逸の方でござりまして、ライン河に沿ふた所の工場でござりまするが、其の工場へ參觀に行きましたときに、自分が先づ驚いたのは工場内の技術の部分を擔當する博士學士及び掛員と云ふものが悉皆併せて二百五十人は居りました、是れは無論大會社でありますから、經濟の許す限りは擧げて人を雇ふと云ふのが當然の理由であります、殊に染粉など、云ふものは獨逸が世界に向つて顧客を引受けて居るのでござりませぬから、隣りの瑞西、それから佛蘭西などは、非常に激烈の競争をして居るがために、是れは無論他の工業よりもヨリ以上の力を盡して自分の販路を擴めねばならぬと云ふ位置になつては居りますが、其の二百數十人の技術者を雇ふと云ふことは他に又理由がある、其

の理由とするのは何う云ふことが主たる理由であるかと云ふと、其の社長が斯う云ふことを言ふた、先づ私が第一に質問を發して「斯の如く多く技術者を要する理由は何うだ」と問ふた所が社長は之れに答へて「無論其の必要があるからだ」と云ふ簡單なる一言でありました「何故に其の必要があるか」と云ふと「自分の所では此の染粉と云ふことに就ては世界各國に需要者を持つて居るのであるから、佛蘭西なり、瑞西なりの當業者と始終市場に於て激烈なる競争をして居る、そこで一日或は一刻と雖も彼等に先んせられると云ふことを非常に恐れて居るのである、夫れ故に斯の如く技術者を多く雇ふのであるが、此の技術者の數と云ふものは別に限りはないけれども、自分等は此の技術者に向つて斯う云ふことを要求して居る、二百數十人の技術者に向つて、十年に一度だけ何か大なる發明でなくつても宜い、少なくとも其所でやつて居らない所の方法或は製品を造り出して呉れと云ふ注文を出して居るのである」と斯う云ふのでござります、それから勘定して見ますると、假に二百五十人の技術者が居つて、十年に一度何か新しいことを考へると云ふことになりますると、毎年二十五宛新規なる研究の成

績を擧げて行くことになる割合でありますが實際は此數字をうり參らぬと致しても兎も角非常に遠大なる考を持つてやつて居るのである、さうして出來上つた成績に對し無論技術者に相當の報酬もやるし、又特許權なども取れたならば、それに對する相當な報酬もやる、而已ならず平素是等の技術者に對して出來るだけの優遇をして居ると云ふことでありました、是等に就ては日本などは逆も及びも付かない所の大なる計畫を以てやつて居る、尙又其の社長が「一人が十年間に詰らない一の發明をしたのであつても、尙ほ各國の競争者に對して充分並行して行き、若くはそれ以上に彼等を制するものが出來る」と云ふことを斷言して居りました、是等は技術が基礎になると云ふことを能く彼等が解して居る證據でござります、これは大會社でござりまするが、小さい工場或は會社などに於きましても、何れも其の支配人或はそれ以上の社長と云ふものは、大抵其の技術者から成り上つたものが經營して居る、又然らざる者もありませんが、併し現在獨逸が世界各國に自分の製品を出し、獨逸の製品は堅牢である、或は効力が多いと云ふやうな評判を受けて居るのは、小さい工場でも、大きい工場でも皆さう云ふや

うな方針を以てやつて居るから自然に好評を得るのであるところが日本は中々さう云ふことになつて居らない、是等は日本と獨逸との相違のある點であつて、而も我々は事實上化學工業と云ふものは、主腦たるべき技術に最も重きを置いて經營しなければならぬと云ふ、是れが一の例證になつて居ると思ひます。其次には根本的の工業が萎縮して居ると云ふことであります、何が化學工業の根本工業であるかと云ふに、是れは日本にもござりまするが、詰り硫酸とか、鹽酸とか、硝酸とか云ふ普通の酸類及びアルカリの製品を拵へる所の工業が即ち根本工業であつて、それが發達しなければ、此の化學工業と云ふものが迎も盛になると云ふことは出來ないのでござります、現在日本に於けるアルカリ工業なるものは御承知の通り山口縣の小野田に一ヶ所、是れは日本含密株式會社と申します、それから關東の方にありましては、東京附近の王子にあります、關東酸曹株式會社、此二ツは主たるものである、此二ツの會社が如何なることをやつて居るかど云ふと、成程資本としては日本では大きいかも知れませぬけれども、其の造り出す製品はまだ範圍が狭くて、或物に至つては出來ない、而も其の製品の高

は、輸入して來るものが二百四五拾萬圓あるに拘はらず、日本國中で拵へる所の製品は僅かに半分しか出來ないと云ふ有様でござります、硫酸に於ては既に輸入を防いで居るけれども、アルカリ製品に於てはまだ二倍以上の輸入を仰いで居る、殊に曹達ものは何れの工業にも皆直接間接に使はれて居るものでありますから、斯う云ふやうなものが安く出來ない間、即ち此の工業が盛に立ち行く時代が來なければ、他の化學工業は充分に發達することが出來ないのであります。

それから改良或は發明力と云ふことに重きを置かぬ點は、是れは餘程近頃は變つて參りましたけれども、大小の工場を引ッ括めて申しますと、多くの工業は新たに金の要るために此の改良をしない、新たに金がなければ出來ないと云ふやうな仕事になつて來ると云ふと、先づそれは後廻しになりまするが、普通で、詰り現狀維持であります、成るべく現在の製品さへ多く販賣すれば宜いと云ふ方針がいつも先きに立つために、總の工業が外國に於て進歩するよりも、日本に於て進歩する程度が非常に遅いのでござります、それから需要の範圍と云ふのは、

是れは自分の造つた製品が外國に出ると云ふことは知つて居つても、一步進んで何れの國に行くか云ふことは知つて居つても、其國に於て如何なる需要をそれが持つて居るか云ふことを精しく知らないがために、時々甲の用途に向くべきものを乙の用途の方面に賣つて見たり、或は又悪くて間に合ふ所のものに向つて良い品物をやつて見たり、良くなければならぬ所へ間違へて悪い物をやつたりする、是れは詰り其之れを取扱ふ人間、即ち經營者が自分の商品は何う云ふ市場に行つて、何う云ふ商品と競争を受けて居るか、何う云ふ商品が外國に於て競争品になつて居るか、それが如何に用ゐられて居るか、如何なる用途に向つてそれが最も多く利用せられて居るか、其の利用せられる製品は何う云ふ性質を持つて居ればその方面に最も適當するのであるかと云ふやうな細かなる需要の範圍、斯う云ふことをば日本の當業者の多くは丸ッ切り知らない云つても宜からうと思ふ、斯う云ふ缺點が改善出来ぬ間は我化學工業より生産する製品が充分に發達することが出来ずに、國際市場に於て外國品と争ふことの出来ない所以であらうと思ふのでござります。

之れに依つて日本の化學工業と申しますれば、誰が見ても充分健全な基礎の上に立つて經營して居ると云ふことは言へないのでござります、物に依りましては數百萬圓或は何千萬圓と云ふやうな大きな工場もござりまするが、夫等の工場の化學工業の種類と云ふたら至つて簡單なものであつて、今例に引きました獨逸の染料工場或は其他の込み入つた工場であります、さう云ふ大なる工場と云ふものを日本に於て見受けないのは、詰り是等の原因に依つて出来て來ることが出來ないのであると私は信じて居るのでござります、勿論此の工業と云ふことは商業と違ひまして、時機を見て非常に利益を得るとか、或は商機をうまく握つた爲めに非常なる利益があると云ふやうなものでなくして、極く着實な基礎の上に立つて、例令利益が低くとも確實なる利益を得つゝ立たなければならぬ、然らざれば此の工業と云ふものは決して成立たない、況んや此の化學工業に於てはさう云ふ精神を以て臨まなければならぬのである、然るに日本の化學工業の概況と云ひますると、總て今お話をした中の條件が必ず缺けて居るのでござります、尙ほ其の一々細かい枝葉に亘つた工業に就きましては、是れより此度

の共進會に關係のある品物に就てお話を申し上げやうと思ひます。

それから化學製品の貿易と云ふことに就きましたは、是れも現に昨日陶磁器即ち窯業製品に就て平野君がお話をせられたと云ふことでありますし、尙ほ雜貨貿易のお話の中にも化學製品のことがあつたらうと思ひます、それは野間審査官からお話をせられたと云ふことを聞きましたから、今日は前にお断りをしましたやうに、私は私の受け持ちました化學製品のことだけに就て其の狀態と、並に國際市場に於て、外國の製品に比し我製品が如何なる有様になつて居るかと思ふことを述べて御免を蒙らうと思ひます。

先づ日本に於ける化學工業より生産する品物と、外國から這入つて來まする化學製品との貿易關係は如何になつて居るかと思ふと、日本の化學製品に對する貿易の輸出入總額は約壹億九千萬圓ほどの額になつて居ります、其中で日本から出す化學製品と申しますと、約五千八百萬圓である、それから向ふから來まする化學製品は壹億四千萬圓ほどの割合になつて居ります、で結局は三倍とまでは行きませぬけれども、日本の化學製品の輸出高と、外國から這入つて來ます

る化學製品の輸入高とを比べますと、輸入の方が約三倍弱になつて居ります、是等は今お話申し上げました原因の外に、他の多くの原因に依つて斯の如く輸出が伸びないのであるが、併ながら日本は過去四十年の間に發達した化學工業の速力と、外國に於て既往四五十年の間に化學工業の發達した速力とは、向ふの工業の方が餘程進歩して居るのである、日本は長足の進歩をしたと云ひますけれども、少なくとも此の化學工業に於ては外國の方が二本足で歩けば、日本のは一本足で歩くのと同じ有様でござりますから、尙ほ將來に向つて現在のやうな状態を持続する以上は、益々遅れる一方であると思ひます、それで今日ホンの例としてお話を申しますのは、此の共進會の會場に並んで居りますもので、燐寸、それから油類……油類と云ひましても、是れは植物脂肪油と動物脂肪油……動物脂肪油と云へば即ち魚油の如きもの、それから揮發油、譬へば薄荷或はテレピン油のやうな油、それから蠟類及び蠟燭其他藥品、斯う云ふやうな物に就て、是れも餘り一々詳しく述べますと限りがありませぬから、簡單に是等の品々の貿易状態をお話いたさうと思ひます。

先づ第一に燐寸であります、此の燐寸は御承知の通り貿易品と致しまして、日本の重要なる輸出品である、此の燐寸の工業は無論輸入工業でありまして、明治八年の頃でありました、吉井伯爵が初めて佛蘭西から歸られたときに清水某に諮つて、日本に於て燐寸の研究を始められたのでござります、是れが燐寸の工業の起りでありまして、爾來明治九年、十年、十一年頃は殆んどまだ工業の體裁を爲して居りませぬのでござります、尙ほ十二年、十三年と次第に其の時代の進むに従つて稍や工業の状態を爲して來て、遂に今日の盛大なる工業になつたのでござります、是れも有體に申しますれば、業體に於ては今日と雖も、決して完全なる業體とは云はれませぬ、現在に於ては日本の生産高は大凡一ヶ年に先づ千五百萬圓ばかりでありまして、此内輸出高は一ヶ年約壹千萬圓であります、是等の燐寸は東洋の市場に於ては確實なる販路を持つて居て、歐米の先進の燐寸國と雖も、印度以東の東洋市場には少しも這入ることが出來ないやうに我日本の燐寸は勢力を占めたのでござります、先づ今日お話を申し上げます中でも、此の燐寸が一番に好き輸出品になつて居る、併ながら此の燐寸の品質としては決して是

れで満足することが出來ない、現に此の共進會に出て居りました燐寸の中でも、外國品に比べまするとまだ劣る點が數多あるのでござります、随つて此の燐寸の製作上即ち技術上の研究と云ふことが尙ほ研究の餘地があるやうに考へられます、殊に膠の使ひ方に至つては餘程當業者が研究しなければならぬこと、信じます、それから此の燐寸の業體は如何と云ふことになりますると、御承知の通り非常に此の燐寸の業體は悪うござりまして、近頃は餘りさう云ふことも耳にさせぬけれども、數年以前など、云ふものは何か仕事に失敗した者が此の燐寸の仕事をやるのである、燐寸は即ち失敗者の仕事であると言はれたくらゐであります、さう云ふ工業でありまして、如何にも此の燐寸の工業は無雜作に出來る様に考へられたのでそれがために或は粗製となり、或は濫造となり、或は又價格の賣崩しをやると云ふことが頻々として行はれた、そこで當業者は政府の力を借つて骨て統一を企てなければ、是れも或理由の下に於て成り立ちませなんだが、それ以來此業に於ては餘り向上すると云ふ傾向もなく、殆んど現狀維持で以て今日までやつて來て居ります、我燐寸の市場は印度以東と云

ひまするけれども、尙ほそれよりも以西に進む所の充分なる見込の着いて居るのであります、それにも拘はらず、其の業體の悪いがために向ふへ伸びることが出来ないと言ふのは此の燐寸工業の大なる疑問になつて居るのでござります、それには無論品質の可からぬ所もござりますが、第一に此の燐寸工業の業體が頗る不安定なることが主因をなすにあらざると思ひます。

序にお話を申しまするが、是れは御承知でもござりませう、此の燐寸工業に對しては國家も非常に保護をして居るのであつて、之れに要する所の鹽酸加里、燐、パラフィン蠟の如き主要なる原料は總て無税で輸入させて居る、それにも拘はらず此の四五年以來と言ふものは進むよりは或は衰へはせぬかと云ふやうな懸念の見える所もあるやうに考へられるのでござります、今露骨に業體を申しますると、大なる缺點は同業者の統一を缺いて居る事である、それがために何も思ひ々々の行動を採り對外の觀念がない詰り粗製となり濫造となる、或は拔駆けの功名のために價格の賣崩しが出来たりする、それが爲め相當の利益を得られるものも外國人のために利益を奪はれて居る、國家が損をして居るのみでなく

當業者互に相殺的に損失を重ねて居るから小なる燐寸業者は何時迄も發展しない、何時迄も窮境にあるから何時迄も燐寸工業の發展を邪魔することに成ります、外國に於ける燐寸の工業國としては、瑞典あたりはマア古い國でござりまするが近頃亞米利加に於てはダイヤモンド會社と云ふ有力な會社も出來た、夫等が又南米及び歐洲尙ほ進んでは東洋に機會があつたならば乗じやうと云ふ考を持つて居りますから、此際日本の燐寸業を更に發展させやうと云ふことになりますると、先づ此の業體を改めて然る後に其の製品の改良に掛らなければならぬ、左もなければ夫等の敵に向つて對抗することは出来まいと考へるのでござります。

それから其次には護謨でござります、護謨は原料と致しましては未だ日本にないでござります、それで其の原料の護謨は何れも皆外國から取つて居ります、其の外國と申しますると主に南洋の新嘉坡、それから南米のブラジル地方、さう云ふ方面から原料の護謨を輸入して日本に於て護謨の製品に代へて居る、而已ならず此の護謨は各種の工業に何れも多少使はれて居りますから、謂はゞ各工

業に重大なる關係を持つて居る、即ち此の護謨の消費高の如何に依つて工業の隆盛がトせられると云ふは、各各方面に關係を持つて居る工業でござります、其の工業が未だ日本に於て悲しいかな充分に發達をして居らない、歐米と雖も自分の所に於て其の原料が産するのではありませぬ、矢張り日本と同様に南米から取るか、或は亞非利加から取るか、又は新嘉坡邊から取つて來ねばならぬ位置に在るので、原料を得ると云ふ位置の關係から云ひますれば、日本は歐米と一向異らぬのである、然るに其の製品に至つては向ふは廉くして、日本は高いのみならず其の出来る品物も向ふは立派であるが、日本は劣等物より出来ない、併し現在の護謨の工業は其の出来る製品が粗造ではありますけれども、主なる製品だけは漸く輸入を防ぎ得るやうになりました、其の輸入を防ぎ得られない所の護謨製品は未だ日本では需要が少ない、又物に依つては技術の分らぬ點もあるが、要するに需要の割合が少ない、それから又日本の護謨工業の狀態は八百屋主義でありますから、一の専門の護謨製品を造つて居ると云ふことは稀である、所謂大きな護謨工業として何れも各種の製品を造つて居る、それで需要

の少ない物は造られないと云ふ一の條件附の工業になつて居りますから、技術の相當な考を要するもの、或は又需要の極く少ないものと云ふのは、勢ひ日本に於て出來得られぬことになつて居ります、ために夫等の物は尙ほ未だ歐米からドン／＼這入つて來ることになつて居る、それで此の護謨の全體の輸入はどれほどであるかと云ふと、護謨の原料と致しましては約參百萬圓ほど這入つて居ります、其他護謨に幾分加工をしたもの、所謂半製品及び製品と名けられる所の物が百萬圓餘這入つて參ります、是等の百萬圓と云ふのは何う云ふものであるかと云ふと、生地物となつて這入つて來る、或は普通の何か細工をする護謨の堅い棒のやうな物になつて這入つて來る、或は又防水布になつて這入つて來る、之れを引ッ括めて云ひますと約百萬圓ほど這入つて來る、日本産護謨製品は年に約四百五十拾萬圓内外の生産があるのでござります、詰り參百幾萬圓の原料を使つて四百幾萬圓の生産をやつて居ると云ふことになつて居る、それから又日本の護謨工業の中に於て何が輸出せられて居るか、と云ふと、是れは支那地方に向つて護謨毬が一番の輸出品となつて居る、是れも近來に至つて歐米品と對抗

して、漸く立ち行けると云ふやうな程度になつて來た、其他雜品が少々出る位のこと、此の護謨工業は未だ輸出工業と云ふことの仲間には入れられぬやうな状態になつて居るのでござります。

其次には油であります、今回此の共進會に出て居ります油の中で、先づ第一に脂肪油から申しますると、菜種油が出て居ります、それから大豆油、椰子油、それから胡麻油、荏油、大凡斯んな物が出て居ります、其中で貿易に關係のある品物と申しますると、種油、大豆油、椰子油、此三つであつて、其他は随分生産は致しまするが貿易品としては餘り重大な關係を持つて居りませぬ、依つて此の三種に就て其の概況をお話することに致します。

先づ種油は日本では大凡九百萬圓ほどの生産がある、是れも尤も年に依つて出入があります、併し此の九百萬圓と云ふ生産は日本では其の原料が乏しくして日本では約百萬石くらゐの原料より出來ないさうでござりますから、その残りの原料は總て輸入に仰がなければなりません、日本から輸出する種油は約五拾萬から貳百萬圓迄の間を昇降して非常に異なる而かも不安定なる輸出状

況を示して居るので、此種油は近來少しく状態が變りましたけれども、從來は日本に於て油と云ふと殆んど此の種油が主腦になつて居りました、燈火にも使ひ、食用にも使ひ、機械用にも使ふと云ふやうな譯で、有らゆる油の用途に向つて此の種油が需用せられて居りました、夫故に此の種油の仕事と云ふものは、木に依つて各地方で生産せられて來ました、それが今から二十年ほど以來外國の機械に依り初めて其の搾油をせられると云ふ状況になつて來た、然るに此の製油工業の状態は現在何うであるかと云ふと、此の製油工業は又至つて憐れな状態に在るのである、何故に憐れの状態であるかと云ふと、一は此の油の相場が非常に變動をすると云ふことが第一であります、それがために當業者は安心して仕事が出来難い所謂作業に依つて利益を圖るよりは、寧ろ相場に依つて利益を圖ると云ふ風に傾いて來た、是れは非常に危険な工業になつて來た、それからもう一ツは右に述べた工業状態であるからして、當業者は何れも各人激烈なる競争をする、現在に於て日本の製油と云ふことは非常に主要な工業であるにも拘はず、各々の工場が何れも非常な苦心をして居ります、主なる製油の工場と云

ひますれば大阪地方に、北海道に、九州に、それから四日市邊にもあるが、是等は何れも大なる工場でありまして、立派な新式の機械を以てやつて居るに拘はらず、尙ほ自分の業務を進歩させることが出来ない、謂はゞ引きすつて行かれるだけ引きすつて行かうと云ふ苦しき状態になつて居りまして、時に依つては或は肥料を始めるとか、或は他の油をやるとか云ふやうに、有らゆる方法を盡して維持して居るのである、それがために現在も二三の大なる工場は休んで居るくらいである、是れは歐米のそれとは非常なる反對の現象であつて、歐羅巴なり亞米利加では其の原因は何れにあるか分りませぬが、何れも此の製油業をやつて居る人及び製油業をして居る所の工場は非常に經濟の状態も宜し、それから又經營者も非常に金満家が多い、是れは金持が製油業をやつて居るのか、製油業をやつた爲めに金が出来たのかは分りませぬが、兎に角此の製油業は非常に盛なる位置に在ると云ふことは、全く日本と正反對である、是故に近來日本に於ては頻々として種々の請願を政府に出し、或は戻税をして呉れとか、免税にして呉れとか云ふので、當業者は種々自分の業體を救ふに、汲々として居る、是れは詰り業體か

ら言へば、極めて需要の多いものであるに拘はらず、其の工業が非常に萎靡して居ると云ふ現在の状態であるからであります。

其次に大豆油、是れは至つて新しい工業でありまして、向ひ側の滿洲では昔からやつて居りますけれども、近來大豆油の用途が新しく發見せられた爲めに近い將來に於て急速に進歩するであらうと私は考へて居るので、是れも用途としまして近來新しく開けたと云ふのは、詰り乾燥油の代用に充分使へる見込が立ちかけて來た、それから歐米に於ては、脂肪の材料に非常に窮して來たと云ふ此の二ツの理由に依つて大豆が大いに向くやうになつて來た、夫故に歐米の或國に於ては是れがために特に大豆を無税で入れると云ふことにした國もあるのでござります、日本では未だ大なる工場と云つてはありませぬけれども、現に當地にもある、或は徳島にもある、又大阪、四日市でもやつて居る、併し是れまでは大豆油なるもの、獨り歩きが出来なかつた爲めに其の用途がない、其の用途がないために大豆を搾つて見た所で、大豆粕の景氣が良くなければ油をあてに搾る譯に行かぬのである、是れから後は此の大豆油と云ふことが、大いに發展し得

られるであらうと思ひます、殊に此の大豆油に對しては特に戻税をすることに定まりましたから、非常に其の仕事が宜くなるだらうと思ふ、併し是れは日本から考へますると、歐米に向つては何所までも輸出の商品となつて居りましてそれが歐米から此方へ逆輸入をすると云ふことは無論ない商品でござります。其次には椰子油でござります、是れは日本では殆んど石鹼の材料にして居ります、是れも原料は椰子のコブラでござりまして、是れは無論日本にありませぬ、南洋から輸入して搾つて居ります、併ながら搾つたわけでは足らぬがために尙ほ外國から椰子油を入れて居ります、ところが其の品質は需用者に云はせまると輸入した物よりは日本に出来る物が悪いために矢張り輸入の油を使ふことが多いのと、それから又内地ばかりの物を使ひたうても、内地ばかりの物では逆も需要を充すことが出来ないと思ふ所から、此の椰子油が毎年這入つて來るのでござります、其の這入つて來る高は大凡七八萬圓ほどである、大した金でもありません、一昨年は拾參萬圓、昨年は八萬圓ほど這入つて居ります、是れは段々日本でも仕事を始めかけて來ましたからして、輸入も隨つて少なくなるだらう

と考へて居ります、尙ほ此の共進會には中々良い品物が出て居りましたが、併し平素尙ほあゝ云ふ良い品物を造る必要があるだらうと思つて居ります。其次には魚油であります、是れは無論主要なる輸出品であつて、毎歲矢張り貳百萬圓以上を外國に出して居ります、其の魚油と云つても殊に近來は鯨が多くなつて來ました、其次には鯨、其次には鰯と云ふやうな順序で外國に出して居ります、是れもたい、現在出して居りまする製品に依れば、何れも其の原油に僅かの精製を加へて出して居るのであつて、充分此の油をまだ日本で利用すると云ふことをやつて居らない、それがために日本から出て行つた油が加工せられて、或は塗料となつて這入つて來る、或は又機械油となつて這入る、或は又石鹼となつて這入ると云ふやうに、其形を變へて滔々として這入つて來て居るのでござります、是等は日本の原料を向ふへ持つて行つて、其の加工をしたものが日本に這入つて來るのでありますから、我日本に於ては尙ほ進んで充分の研究を爲し、それだけのものを拵へて、之れを防ぐと云ふ必要があるだらうと思ふ。それから其次には薄荷であります、是れは現在に於きましては詳しい統計があ

りませぬから、幾ら生産すると云ふことは分りませぬが、大畧の調は百五六十萬圓であらうと思つて居ります、其中で約百萬圓内外は外國に出て居る、それに就て外國に於ける競争の狀態及び其の市場の模様は如何であるかと云へば、御承知の通り日本の産地は北海道が主である、それから此の中國の備前、備中、備後、此の三備地方が産地になつて居ります、昔は山形地方が主産地でありましたけれども、近來は狀況の變つた爲めに極く生産が少なくなり、殆んど此の三備地方と北海道が産地になつて居る、夫等は先づ取卸油とりおろしと稱する原油を造り、神戸なり横濱に持つて來まして、初めて薄荷腦と薄荷油とに分けて外國に出して居ります、世界中に於ける薄荷の生産地は現在では澤山にござりまするが、其主なる生産地は日本と亞米利加それから歐羅巴の内では獨逸、英吉利、佛蘭西が主なる産地になつて居る、それで品質から云ひますると、日本の薄荷腦は世界獨歩となつて居つて、何れも此の日本の薄荷腦に敵對することは出來ない程の優勝の位地を占めて居るのです、薄荷腦に關しては日本が先づ安心して宜からうと思ふのですが、反對に薄荷油の方は如何かと云ふと、無論其腦を採つた上の油ですから

餘り良いことはありません、兎に角品位が悪い、即ち苦味があるからして、此油が非常に向ふでは値段が安價である、外國の油は日本の油よりも二倍以上もして居ると云ふやうな結果なので、此油の改良と云ふことが又餘程必要になつて居る、併し腦に就きましては何故に此の日本が世界獨歩の商品として之れを供給することが出來るかと言ふと、是れは天然に然らしむる原因があるのである、それは日本の薄荷葉がメントール即ち腦を合ひ分量が多い、大程五割以上六割を含有して居る、外國のは四割を超えて居るものが少ない、夫故に向ふで薄荷腦を拵へて日本と競争することは不利でありますから、外國ではたゞ薄荷油を拵へて居る、で日本の薄荷腦は幸に競争を受けずして歡迎せられて居る、然るに此油は其の位置から云ひますると、非常に虐遇せられて居つて、何かの混物くらゐに使はれて居る、即ち獨立して日本の薄荷油が使はれて居ることは少ない、故に將來は此の薄荷油を改善すると云ふことが繋つて貿易當業者のために最も必要であらうと思ひます。

それから蠟であります、此度の共進會に出て居りますのは木蠟、それから鯨蠟、

それから密蠟、此の三種が出て居ります、一寸お断りをして置くのは、木蠟は一體蠟ではないのでござります、是れは習慣上蠟の中に組入れられて居つたのであるが、何れかと云へば油の方に屬して居る、即ち學術上木蠟は蠟でないけれども、茲に便宜上矢張り蠟としてお話を申します、此の木蠟と、鯨蠟と、密蠟の三つの中で貿易品として價値のあるものは木蠟であつて、他は未だ微々として居る、殊に密蠟に至つては其の産額が少ない、而已ならず是迄少々宛輸出して居りましたが、數年以來は殆んど杜絶してしまひました故に今日は此話は省略しまして木蠟に就て申します、世界で此の木蠟の産する所は殆んど他にない、但しお断りして置くのは支那其他にも木蠟はありますけれども、日本の木蠟はそれとは異つて居る、日本で生産する木蠟は世界にない、所謂此の日本の木蠟は世界の一品になつて居る、日本の産地は九州が主であつて、四國及中國其他和歌山邊にも出来る、或は山陰道にも出来るが、先づ主産地は九州、四國及び中國の端是等が主産地になつて居る、是れが一ヶ年に……無論多いときも少ないときもありますけれども、先づ一ヶ年の産額は參百五十萬圓内外である、其中でそれを

加工して白い木蠟にする、所謂漂白蠟にして世界に供給して居る、其高が一ヶ年約百萬圓、是れは用途としましては日本のやうに蠟燭に使ふことは第二段になつて居りました、向ふではそれを艶つけの材料或は塗料或は其他の混物或は錆止めに使つて居りました、多くは先づ艶出しの材料に主として使はれて居る、是れも競争品と致しまして、木蠟に代用すべき所のパラヒン蠟があります、此のパラヒン蠟は亞米利加にある、それから歐羅巴にはパラヒンがありませぬけれども、矢張りパラヒンに似た所のセレンシン蠟と云ふものが獨逸、奧太利の國境並に露西亞邊にあります、是れと矢張り競争を受けて居ります、日本で木蠟を造る方は享保以來殆んど同一の方法をやつて居る、夫故に五六月の頃は此の晒蠟を拵へるのに最も好いときであるが、其他の時期に至つては中々之れを容易に拵へることが出来ない、殊に降雨時であるとか、或は寒中であるとか云ふ時期になると何ヶ月掛るかも分らない、さう云ふやうな不完全な方法に依つて造つて居る、是れは第一に改良しなければならぬ點である、それからもう一ツは當業者の或者は專業にやつて居りますけれども、其他は農家の副業になつて居るからし

て、製品が一定しない、又當業者が外國の用途を知らないがために、此の木蠟に油を混せたり、或は其の他悪い事をして市場に持つて来るから、外國に出す所の製品が非常に落されると云ふ嫌ひがある、それがために外國に行つて折角好い販路を持つて居りましたも、時々信用或は價格を落されることが今までに屢々あるのでござります、僅に大阪及び神戸から出て居る此の木蠟の中に於て、プライムと稱へられて居る木蠟のみが稍や歓迎せられて居るのであります、それより以下二等、三等の用品は單獨の用途を持つて居らぬやうな状態になつて居る、是れも當業者が實際の用途を知らないからである、塗料に使ひますものに種油を混せたりするのは最も可かぬのであるが、それを知らない詰り自分の品物を賣つて居ながら、其の品物が何の途に用ゐられるか、何う云ふ敵を持つて居るか、と云ふことが分らない、それがために此の木蠟も二十年以來殆んど上つたり下つたりして、一向其の生産が殖えない、而已ならず近頃は、大凡二十年前に比すれば却つて減つて居るくらいであります、元來木蠟は世界に於ける特産品でありながら、輸出を増進せしむることが出来ない、寧ろ段々減退すると云ふことは當

業者の大きいに考へなければならぬ問題であらうと思ひます。

其次には蠟燭であります、此の蠟燭は從來輸入品と致しまして一番に多く這入つて來ました時には三十万圓近く一ヶ年に輸入があつたのでござります、然るに近來に至りまして蠟燭として這入つて來ます金高は僅かに三四万圓に止まるやうになりました、是れは國家としては非常に悦ぶべきことであります、が、品質から申しますと、未だ我國の蠟燭が外國の蠟燭に及ばぬこと數等若くは數十等も劣つて居る、さう云ふ品物ばかりしかないのでござります、日本に於ける蠟燭の生産高は確かりした統計はござりませぬけれども、先づ木蠟の生産とパラフィン蠟、ステアリンの輸入量から考へて見ますと、蠟燭の内地需要と云ふものは大凡四五百万圓ほどのものであらうと思ふ、此の蠟燭の需要は年々少量ながら殖えて參りますのでござります、何う云ふ譯かと言ふと、各種工業の發達と共に、電氣や瓦斯があつても、造船所、鐵工所其他の工業にして蠟燭でなければ非常に不便を感じる方面、宴會其他に於て燈火を目的とせず、粧飾用に使用する方面が次第に増して參りましたから、それがために從來住宅に於て燈用

として使はれて居つたものが右の新用途が出来て來ましたから次第々々に此の蠟燭の需要が殖えて來たのでござります、日本の木蠟で造らるゝ蠟燭と、それから外國から原料を輸入して造るものと今日二つあるのであつて、其の割合を云ひますと、まだ日本の木蠟から手掛けで拵へる所の蠟燭の方が幾分多く使はれて居るのでござります、それから向ふから這入つて來ると云ふのは、詰りバラヒンビステアリンの蠟であつて、それは兩方合せて年々百四五十萬圓這入つて來て居る、其のバラヒンの一部は燐寸の原料になりますけれども、硬い大部分のものは皆蠟燭に使用せらるゝのである、而して此のステアリンは總て蠟燭に使はれて居る、初めは都會以外の土地に在つては凡て手掛蠟燭を使用して居りましたが、近來は都會に接近した村落に至るまで皆多く此の西洋型の蠟燭を使ふやうになつて來た、殊に近來はバラヒンを賣るがためにスタンダードや或はライジングサンの如き商會が、何れも之れを蠟燭にして賣ると云ふことを力めて居るやうに聞きました、それで其の販路は益々殖えるだらうと思ひます、併ながら其の蠟燭の品位は外國の品物に比べて見ると、まだ日本の物が劣つて居

りますから上等蠟燭の需用者の爲め、今日尙ほ二三萬圓の輸入がある所以でござります。

其次には藥品でござります、此の藥品は今回種々のものが出て居りましたけれども特に御話し申す可き價值あるものは至つて少ふござります、が其中で初めにアルカリ及び酸類のことを申しましたから、それを一寸申し上げやうと思ひます、即ち特に藥品の中からアルカリ製品を引出して申します、此のアルカリ工業と云ふものは前にもお話を申しました通り化學工業に取つては重要な原料を供給するものでありますから、之れを廉く供給して呉れなければ他の化學工業の製品が廉く出來ないと云ふ重大なる關係を持つて居る、夫故に歐羅巴でも、亞米利加でも、其國の工業、殊に化學工業の盛衰は、此のアルカリ工業の盛であるのと、然らざるとに依つてトし得ると云はれるほゞになつて居ります、現在アルカリ工業の最も盛なのは獨逸及び英吉利であります、それは逆も日本では眞似の出來ないやうな仕掛をやつて居りますから、是れは逆も其點まで發達させるのはまだ幾何の年月を要するか分らない、夫故に他の化學工業も向ふは

次第々々に大なる速力を以て進んで居ります、併ながら日本に於ては是等の工業の業體が宜くならないために、化学工業全體が振はないのでありますアルカリ業不振の原因は鹽其他複雑なる關係がござりますから、只今特に茲にお話を省察しますが、兎に角此のアルカリ工業の萎靡振はぬと云ふのは、我化学工業の爲め誠に惜む可きことでありますから一日も早く斯業の發展策を講せなければならぬと思ひます、それから酸類中、硫酸は漸く輸入を防ぎ得られて、二三十萬圓の輸出が出来るやうになりました之は人造肥料製造業の發達と共に硫酸製造が進歩した結果でありますそれからもう一ツアルカリ製品としては漂白粉を日本から輸出するやうになつて來た、之れは外國から漂白粉を日本へ持つて來る間に効力を失ふ缺點があると云ふために、それで日本で造つて少々高く付いても此方が利益であるやうになつて來た爲である、それで此工業が次第に進歩して毎年四五萬圓の輸出をする迄になつたのであります。

要するに我邦に於ては目下の處此大切なるアルカリ工業を發展せしむ可き時機が到達しないのであるから我々は一日も早く此根本的化學工業を發達せし

め惹いて全體の化學工業の隆盛を熱望して止まぬのであります。

終りに私の希望として一言御聴取を願ひ度き事は今日お話を申し上げました製品を直接取扱つて居られるお方のみならず、他の化學製品をお取扱ひの方々には現在本邦の化學工業の狀態及化學製品の貿易狀況は歐米のそれに較べて甚だしい相違あるから此が振興策に就ては充分御考慮あらんことを願ふのでござります、大抵私に與へられた時間は過ぎたやうでありますから、是れで御免を蒙ります。(拍手大喝采)

發明と補習教育

東京府立工藝學校長 今 景彦 君

一一四

私の申しまする發明と云ふ言葉は嚴格なる意味から申すのでなくして、新案或は改良、或は新意匠と云ふが如きものを含んだ所の意味を申すので、又補習教育と云ふことも、學校教育に限つた次第でなく、讀書、自修或は講話を聴くと云ふやうなことも總て含める意味に於て申すのであります、であるから廣き意味の發明と、廣き意味の補習教育との關係に就てお話をすると云ふことになるのであります、ところが此の演題は今回お催しになりました所の審査官講話會とでも申しませうか、其の講話會の話としては甚だ不似合のやうに思はれます、何故なれば貿易品共進會に於ける講話會でありますから何か貿易に關係のあるとお話いたすべきが當然であらうと思ひます、然るに全くそれと關係のないやうな發明と補習教育、而も此の演題に就ては一度私は發明協會と云ふ所で話をい

たしたとがあるものでありますから、或は雜誌等に就て既にお讀みになつたお方もあるか知れませぬ、旁々以て不適當な演題のやうでござりまするが、シカシ能く考へて見ますると、廣き意味の發明即ち新案、改良、新意匠と云ふやうなことは工業の生命と申しても宜しからうと思ふ、是れが工業品製作の上に取つて極めて大切な事柄である、殊に貿易品にあつては、國際市場に於て激しい競争をするのであるから、改良或は新案と云ふ事が最も必要であります、若し一日たりとも改良新案の歩を緩ふしたならば此の競争場裡に於て失敗をせねばならぬと思ふ、即ち勝利を得ることが出来ないものでありますから、此の意味に於て私は餘り關係のない問題でもなからうと思ひました爲めに、かゝる演題を撰んだ次第であります。

私は話の順序を次の三通りにいたして述べやうと思ひます。

- 第一 我國民は果して模倣的の國民なるか。
- 第二 發明家は必ずしも學者にあらず。
- 第三 補習教育は發明と如何なる關係あるか。

一一五

此三段に分けて、さうして發明と補習教育との關係を説き明さうと思ひます。
 第一に我國民は果して模倣的の國民なるかと云ふことであります、外國人動もすれば我日本人を呼んで、模倣的國民である、眞似の上手な國民である、眞似好きの國民であると云ふことを申するのであります、其の言葉の意味が單に模倣に巧であると云ふことであるならば我々は甘んじて之れを受くるのであります、何故なれば模倣性は人類の大切な本能である、若しも此の本能がなかつたときには、前代の開化を我々は引継ぐことが出来ない、即ち前代に於て研究された所の結果、それを我々が相續して行くとは出来ないのである、故に單に模倣に巧であると云ふ意味であるならば、我々は有難く其の批評を頂戴するのである、併ながら若しも其の裏面に日本國民と云ふものは發明、發見に堪へない所の國民である、即ち模倣のみを爲し能ふ所の國民である、それより一步進んで發明發見を爲し能はざる所の國民であると云ふ意味であるならば、是れは決して聞き捨てにならぬ、即ち我々は大いに研究をして見なければならぬ問題であると思ふのであります、然るに吾同胞中には輕卒にも外國人の批評を丸呑みにして我

國民性を疑ふ所の人さへもある、即ち發明發見に耐へない處の國民であるかの様に疑ふ所の人がある、シカシ是れは大した誤まりであらうと思ふ、何となれば我國民には決して左様な意氣地のなき歴史を發見することが出来ない、試みに我國の文學なり、技術なり、建築なり、繪畫なり、彫刻等に就て見ましても、嘗ては多く之れを支那に學んだものであります、併ながら年を経るに従つて悉く之れを日本化し、全く之れを日本のものにしてしまつたのであります、又近くは英、獨、佛等を手本とした所の我國の軍事と云ふものは、今や全く日本獨特の陸海軍として其の成績を擧げて居るではありませぬか、又近世科學の應用たる醫學界の方面等にありては我邦學者の研究によりて發見されたる事も多いではありませぬか、之れを以て考へて見ますと、我國民は決して發明發見の出来ない所の意味を以ての模倣的國民でないと思ふことが明瞭であらうと思ひます、勿論我國の文物にして一たびは他國に其範を取つたものが中々多かつたのであります、併ながら是れは單に其の模倣的の時代があつたと云ふだけで、之れを以て直ちに我國民が永久模倣の域を脱することが出来ないと思ふことは、どの方面から考

へても言ひ能はない、最も近世の開化事業に就ては西洋諸國よりも其出發期が遅かつた爲めに、今現に彼れ歐米を學んで居る所の事柄と、歐米に模倣しつゝある事柄が非常に多い、殊に我々の關係を持つて居る工業界の方面に於ては其の模倣だにも充分に出來ない所の事柄が中々多いのである、併ながら早晚其の工業の中の或物は模倣の時代を去つて發明、發見の域に到達すると云ふことは前申した日本國民の歴史に依つて確かに豫言し得ることであらうと思ひます、元來前にも申しました通り人は前代の開化と云ふものを繼承する所の力を有して居るので、此力があつてこそ人間と云ふものは前代よりも現代よりも次代と云ふやうに段々向上して行き得るのであります、即ち模倣性のお蔭で以て我々が向上して行くのである。

元來模倣には外面的模倣、内面的模倣とあるのであります、外面的模倣と申しますると、譬へて申しますれば茲に一のメッキ、即ち鍍金物があるやうであります、が(卓上の器物を指して)之れを鍍金と見ます、然るに外面的模倣と申すことは此の表面に光澤を與へんがために鍍金をすると云ふ事であり、此の鍍金の

意味が地金の其酸化を防ぎ其品物を保護すると云ふものであるならばそれは内面的模倣であります、然るに模倣に巧なりと呼べるゝ日本人にして尙此内面的模倣に注意の足りないために我國の鍍金ははげ易いと云ふ相場がついて居るではありませんか、模倣も亦難い哉であります、願くは更に益模倣の才能を發揮せん事を望む次第であります、一の機械を模倣するに於て先づ機械の「アイデア」をとる事即ち内面的模倣をする事が極めて大切であります、ナゼなれば之れやがて研究の動機となり發明の先驅となるのであります、彼れ獨逸人は科學の研究に於て世界を凌駕し學術上の發見工業上の發明等も亦頗る多い國民であります、所が彼は又模倣に於ても極めて巧な國民であります、彼により造られ販賣さるゝ所の工藝品などの内には能く他國民の長所特點を模倣して往々本家本元の國民を喫驚せしむることがあるではありませんか。

かゝる意味に於て私は模倣は發明發見を阻害するものでないと云ふことを申し、そうして我國民が模倣に巧なりと云ふ事は寧ろ喜ぶべきことでそれが發明發見の域に進む所の行程準備であるから決して外人の輕忽なる批評に惑ふべ

きものでないと云ふことを斷言するのであります。

第二に發明家は必ずしも學者にあらざると云ふことであります。我國には未だ餘り大きな發明を見ませぬ。無論學者は相當にあるやうであります。大きな發明をいたさない、之れに就ては學校が餘り詰込み主義に教育をするから、發明など云ふ働がなくなつてしまふとか、種々な説を立つる人もある様であります。其の説も誤まつて居るやうに思はれる。ナゼなれば發明家は必ずしも學者でないのであります。元來智識と云ふものは靜止的のものである、それから發明發見と云ふやうなことは活動的のものである。普通學者と申しますれば先づ智識の多き人を指すので、即ち靜止的で且つ記憶的の人に多い様であります。それから發明家と申せば心の活動の多くして且つ想像力に富んで居る人に多い様である。そこで此の想像力と云ふこと、發明と云ふものは如何なる關係を有して居るものであるかと云ふことを調べて見るのは極めて面白味のあることであります。元來記憶と申すものは主として過去に關係をして居る、であるから實在の事柄に束縛せられて居るものであります。想像と申すものは主として未

來に關係して未だ實在して居らぬのであります。少しも事實に束縛されることはない、そこで大發明家の中には、事實に束縛されない所の自由自在なる想像力に依つて往々奇想天外より來ると云ふ、が如き假定を作るのであります。而して其假定は其時代にありては謎の如きものであります。飛行機の如きものも、現在飛んで居りますから、我々は餘り不思議に思はないのであります。けれども、あれを想像し假定した計りのときには恰も謎の如きものであつたと思ひます。エツキス光線であつても、無線電信であつても、其の假定時代は世界の多くは人に向つては謎であつた、ところが其の假定説に向つて研究の歩を段々と進めて漸次之れを科學の中に取り込むやうになつたのであります。之れを以て考へて見ますと、此の假定なるものは發明の前提である、然るに其の假定は前に申した通り全く想像から來る所のものである、故に想像は發明家に取つて大なる資格の一であると云ふことが分るのであります。

而して想像は學究的想像と、實用的想像との二通りがある様であります。が學究的想像力と云ふものは何う云ふものであるかと言ふと、一の學説を立てん

として假定をする、さうして置いて學問上から種々實驗を重ねて行き、之れを歸納的に纏めて之れに違ひないと云ふ一の結論をして満足する所のものであります。が、實用的想像と云ふのは例へば彼の自轉車の發明のやうなもので、之れに乗つて一の實際に自分が彼所まで行つて見やうと云ふ想像が土臺になつて之に種々の事を引附けるのであります。が實地家の發明なるものは後者に屬するものが多いのであります。此の二通りは兎も角も有り得るのです。何れにいたせ、兎も角も此の想像をなさんとするには、想像を組み立てる所の材料がなければならぬ、其の材料と云ふものは即ち智識經驗である、たゞ眼を瞑つて考へても物が出來ない、材料がなければ其所に想像が出來ないので、然らば智識材料を澤山に持つて居る所の人、經驗を澤山に持つて居る所の人はヨリ多くの想像を爲し得るか、と云ふと、さうは行かない、此の想像と云ふものは材料を如何なる形に組み立てやうと、それは其人の任意である、だからして想像と云ふものは形式に於ては絶對に自由なものである、假令智識經驗を幾ら澤山持つて居つても、之を組み立つる形式が拙かつたならば、好い想像が出來ない、智識經驗を僅か

しか持つて居らないとしても、それを組み立つる所の形式が立派であつたときには、茲に好き假定をすることが出来る、だからして此の想像の材料は自分の智識經驗の範圍に限られて居るけれども、それを組み立てる所の形式は絶對に自由なるものである、之れに依つて見ますれば想像には材料の必要があるけれども、材料を持つて居ればとて必ずしも想像家でない、と云ふことは斷言し得るのであります、發明家に智識經驗を要することは無論であります、併ながら智識經驗を有する學者必ずしも發明家でない、と云ふことは、即ち今の理由に依つて了解し得ると思ひます、又同時に實地家職工などより發明家を出すことの多いのも當然である事が判ります、併ながら想像力が強くして、さうして智識經驗の多い人であるならば、所謂鬼に鐵棒であつて、最も大なる發明家とならなければならぬのであります。

第三に補習教育と發明と如何なる關係あるか、今私の話を致しました所の想像の材料となるべき智識經驗は如何にして之を得べきかと申しますると、私は補習教育の力であると云ふと言はなければならぬ、兎角我國に於きましては或

學校を卒業致しますると、先づ是れで安心と云ふやうな考を持つて、一向其後の補習教育をするに力を須ぬないやうに思はれます、果して然らば學校教育と云ふものは一つの見切り教育であると云はなければならぬ、見切り教育………學校の内に居るときだけは勉強をするが、校門を出た後は打ツちやらかしてゐるのだから見切り教育である、品物にも見切りと云ふとがある、品物ならばそれでも宜いか知らんも、教育の見切りは餘り感心しないで、補習教育を受けなければ結局見切教育になつてしまふのであります、かるが故に近時文部省は頻りに此種教育の奨励を致して居るのであります、また外國に比して見ますると甚だ幼稚である、併ながら兵庫縣は補習教育に於ては確かに日本一であります、兵庫縣の如く補習教育の盛な所は日本に於ては他に認めませぬ、是れは御縣の大いに誇りとするに足る事と思ひます、即ち兵庫縣民は補習教育の恩澤を受けつつあると申して宜しい、即ち被見切教育者でないと云ふ事が出来ます。

此程湊川補習學校を參觀致しましたが、彼所には千名ほどの生徒が授業を受けつゝある、尙ほ他に二校あります、さうですが、是れも矢張り千名近くの生徒を收

容して居ると云ふことを考へて見ますると、補習教育の甚だ盛な土地であると思ひます、して見ますると將來此の土地からは大發明家が續々輩出しなければならぬと云ふ結論を吾輩の説から産み出すのであります、併しそれには多少の時を藉さなければ可かぬのでありませう、元來補習教育の特長と申しますのは、既に或一定の職業に従事して居る所の人が餘暇に智識を修養して行くこと云ふ教育なのであります、から學校も夜分に開くのが多いのである、或は通信教授、或は通俗講話會、或は講演會、講習會など其の形式は幾通りもある、のであります、すが何れも皆補習教育の方法に過ぎぬであります、而して此教育は前申せし通り職業に従事しつゝある人が受けるのであります、から、教育の利害關係と云ふものは切實である、小學校に於て諸君が教育を受けたときには自ら求めやうと云ふ考を持つて居なかつたのであります、此の教育を受けやうとする所の人には皆自ら求めんとする人である、故に皆求め得るのである、これ此教育の効果が割合に多い所以である、又職業に關係する智識を求めると云ふ事は、譬へば機械業に従事して居る所の人が機械に關する智識を得やうとするのであるから、

恰も餓ゑたるときに水を飲むやうな感じをするのであります、人間が自己の職業に關して改良發明をなさんとするの欲望は一般の人情でありますから精糖機械は學者の手によりて發明せられずして矢張り砂糖屋の若人公たりし鈴木藤三郎君によりて發明されしが如く煙草製造の職工が巻煙草機械の改良を企て印刷屋の職工が印刷機械の發明を企つると云ふ事は少しも怪むに足らぬのでそれ即ち前に申せし實用的想像の熱心なる成果と認むる事が出来る、此時に際し想像の材料となるべき智識を之れに投劑すると云ふ事は發明の前提をしてより大ならしめ、より鮮明ならしむる所のもので此智識の投劑をなすものは實に補習教育の任務であります、私は斯う云ふ調べをして見たのである、世界中の特許出願數と云ふものと、それから補習學校の數と云ふものとを比較して見た、日本に於ける特許出願の件數、並に日本に於ける補習學校及び生徒の數、又獨逸のそれ、米國、英吉利のそれを調べて見たのであります、けれども此の發明と云ふものは必ずしも特許を得るものばかりでありませぬから、發明の全體をそれを以て現はすことは出来ない、それから補習學校と云ふものは補習教育の

一部分に過ぎないのでありますから、これを以て發明と補習教育との完全的關係を知り得べきものとは勿論思はぬ、しかし以上の如き統計が、に作られたならば補習教育と發明との關係に就て私の假定説が幾分なりとも事實に近いと云ふ事を知り得ると思ひます、即ち明治三十八年より四十年までの三ヶ年の間に於ける日、英、米、獨の出願特許總件數を見て見たのであります、何故出願件數を採つたかと申しますると、特許登録をするには特許審査の方針が國々に依つて違ふ、非常に寛大な國もある、或は嚴重な國もありますから、實際特許を得た數では分らぬのであります、それであるから出願數を調べて見た、さうして見ますると、米國の十六萬七千三百八十九件、それから獨逸の十萬六百七十件、英國の八萬六千五百二十件、日本の一萬一千七百六十件、試に日本を米國に比して見ますると十六分の一であります、尚ほ右の四ヶ國に於ける補習夜學校の總數に就て調べをいたして見たのですが、實はそれはハッキリ調べる事が出来なかつたのであります、是等の四ヶ國における補習教育の大勢なるものを知ることが出来た、即ち米國に於ける補習教育の盛大であると云ふことは、私の目撃いたし

た所に依つて見ますると、到る所の中學校、それから工業學校なるものを補習教育のために使はぬ所は殆んどないと申しても宜しい、又紐育市などに於て企てて居る所の天幕教授………是れは夏期天幕を利用して補習教育をいたして居りますが、その教育を受くる所の生徒の總數は年々約一萬を超過し今や此教育の統一を計らんがため當事者は非常なる苦心をいたして居ると云ふ有様になつて居ります、茲に其の學校數を擧ぐることに出來ないのは遺憾であります、三兎に角盛大なるものであります、又獨逸の如きも補習教育は非常に盛である、三十九年の調べに依つて見ますると、プロイセン王國だけでも工業補習夜學校の數が千百六十九校ある、さうして一ヶ年に十七萬六千七百三十八人の生徒を卒業させて居る、それから又英國に就て見ましても、是れは數年前の調べであります、倫敦市に工業夜學校が五百五校ある、其他工業の盛なるマンチエスターの如き、盛んに補習教育を致し居りますから、米、獨、英の三ヶ國に於ける補習教育の盛であると云ふことは是で畧々分らうと思ふのであります。

さて、外國に於ける補習教育は斯の如く盛なる有様であります、我國はさうで

ありましようか先づ帝國の首都たる東京は、何でありますかと觀て見ますると、補習夜學校の總數が三十四校しかも其の三十四校は極く小さい學校です、其中で工業に關係するものは僅かに六校です、さうして一ヶ年に卒業する生徒が六百六人、二百萬の人口を有して居る東京が僅か六百六人に對して補習教育を與へてをるに過ぎぬのであります、以て彼我補習教育の盛否を知るに足るではありませんか、之を前申せし各國の特許出願數と思ひ合せて見ますれば補習教育と發明とは重大なる關係の存してをる事が判からうと思ひます、内地にありて補習教育の最も盛なる兵庫縣神戸市には將來發明發見家の續々輩出する事は蓋し疑を容れざる所で従て貿易品の改良進歩の上に至大の好影響を與ふる事も保證し得べき事と思ひます、こゝに於て私は神戸市の前途の幸福を祝福せざるを得ぬ次第であります。(拍手大喝采)

歐米に於て如何に日本品が模造されつくあるか

一三〇

農商務技師 松倉 順一

私が御當地に参りましてお話しを致しましたのは從來二度ござります、第一は新田君より今お話しのみりました荷造りの際に一度、第二は私が印度から歸りました場合に伺ひまして、印度貿易に就に一度お話しをしたことがあるのでござります、夫れで實は先頃も御當地に参りまして、甚だ詰らぬことながら、又私の濠洲を視察した結果をお話し申し上げやうかと云ふ考も持つて居りましたが、併し到頭御當地に参つてお話しをする暇が無かつたのでござります、ところが此度共進會の審査のために参りましたので、幸の機會であるから別掲演題に就て話をしると云ふ審査長から特別の御注文でござりました、御承知の通り私は審査其他種々の關係で取込んで居りますから、御辭退をする積りでありましたが、到頭今日は詰らぬことでもお話しをしなければならぬと云ふ機會が急に私

に到來したので、實は大いに困難をいたして居ります、併し今日茲にお話しをするこの光榮を得たのは、大いに私の喜ぶ所でござります、兎に角お聞き苦しい所があるかも知れませんが、夫れは急案なればとして充分のお許しを願ひたいと思ひます。

審査長より御注文の演題は、歐米に於て如何に日本品が模造されつくあるかと云ふのであります、實は農商務省より神戸の共進會へは、さきに一度参考品の陳列をいたし、尙ほ又此度第二回の陳列を致しましたのでござりますが、元來農商務省より出品しますものは、一回を限りとして居るのでござります、併し勝部館長は、斯の如き貿易に大關係ある共進會は餘り無いゆゑ、此際大いに品物を代へ、幾らか多く御参考になるやう仕やうと云ふので、兎に角二回まで陳列をいたした次第でござります、で其の第一回に陳列をいたした品物が返送せられず茲にまだ残つて居りますから、一寸其の一部分を又借しまして、商品に就て私の考へを大略申し上げやうと思ひます、即ち餘り理窟がましい事や、或はやかましい事を申し上げると云ふことも、此際お厭ひの方があられるかも知れませぬ故、私は成

るべく實例に據つてお話しを仕やうと考へたのであります、どうぞ其のお積りで二十分或は三十分間御清聴を願ひます。

(此時聴衆へ「日本重要輸出入品番附」を題する一枚摺のものを配付す)

さて私の立場と致しましては、第一に貿易と云ふことを考へなければなりません、丁度只今差上げましたのは、農商務省の商品陳列館に於て刊行しました輸出と輸入の角力の番附でございます、夫れを御覽になりますと大略分りませうが、是れは一番新しく出来た比較表で、詰り四十三年の輸出入の統計でございます、其裏に書いてあるのが其の貿易の概況でございます、何う云ふ譯で輸出が殖ゑたか、或は輸入が殖ゑたかと云ふことは、夫れを御覽になれば分ります、先づ四十三年の輸出入の總額は幾らかと云ふと、九億二千万圓を算へて居ります、其中輸出は四億五千万圓、輸入の方は少しく殖ゑまして四億六千万圓と云ふ額になつて居る、そればかりでは面白くない、夫れでは輸出の方はどんな物が殖ゑたのだらうかと云ふ問題であります、之を其前の年から申しますると百萬圓以上殖ゑた品物が第一に綿織糸、第二が生糸、羽二重、麥稈及び經木、真田、莫大小、綿布、

日本重要輸出入品番附

橫網輸出總額

四五八、四二八、九九六

Table of exports (輸出) including categories like 生綿及線棉, 鐵及鋼, 豆糖肥料, 石油, 米, etc. with columns for item name, quantity, and value.

明治十四年

入輸 出輸

司行

Table of trade partners (司行) including 英國印度, 北米合衆國, 佛蘭西, 清國, etc.

Table of imports (輸入) including categories like 生綿及線棉, 鐵及鋼, 豆糖肥料, 石油, 米, etc. with columns for item name, quantity, and value.

橫網輸入總額

四六四、三三三、八〇八

茶、砂糖、絹製ハンカチ、斯う云ふものが百万圓以上殖えて居る、斯の土地には糸の關係も生糸としてはありませぬが、綿糸の關係がござります、夫れから麥稈眞田、綿布が關係して居りますが、先づ百万圓以上、殖えた重なるものはかう云ふものであります、然らば此度は輸出の方で百万圓以上減つたものは何うかと云ふと僅かに樟腦及び樟腦油と云ふものが減つて居りますばかりで、其の次には燐寸と云ふ大なる關係物があります、是れも減つて居ります、次に輸入に於て百万圓以上増加したものを調べて見ますと、第一に綿でござります、これは日本としては殖えた所で驚くべきものでない、即ち綿布綿糸の原料品たる綿花でござります、其次に羊毛、これも殖えても構はない、毛糸若くは毛織物の原料品である次に金屬製品、これは鐵及び鋼でありまして、稍や原料に屬して居るもの、或は少しより多く手數の掛つた製品等であり、其他に粗製硫酸安母紐謨と云ふものがある、其次には石油、燐鎂石、毛織物、是等が百万圓以上殖えた輸入の重なるものである、更らに百万圓以上減つた輸入品は何であるかと云ふと、豆糟肥料、米、豆類、人造藍、斯う云ふものが一番に減つたと云ふ所の代表物でござります、是等の品

品の減つたのは種々原因がござりまして、夫れは細かく申せば分りますが、今日は申し上げぬことに致します、兎に角去年中の輸出入額の差が五百八十万圓ばかりになつて居りました、詰り輸入が超過したとは言ひまするもの、兎に角其の輸出入の總額と其前年の同總額とを比較して見ますると、昨年は一億一千万圓と云ふ莫大なる額が計表されて過去貿易に比して大に進んで居ると言ふことが分るこれは非常に日本として喜ぶべき現象であつて、又大いに賀すべきものであらうと思ひます、斯うなつて來ると稍や安心の體でありますが一方から考へて見ますると、世界の大勢と云ふものは段々各國共貿易に對して益々力を盡すと云ふことになつて居りますから、我々は決して油斷をして居る時でないと言ふことが明かに分るのである。

夫れに就て申し上げて見ますると、茲に佛蘭西から支那に輸入して居る斯う云ふ絹布がある(實物を示す)これなどは明白に支那の模様を模倣して、佛蘭西人が着るやうな模様ではない、支那向の意匠圖案まで研究して支那人に向くやうなものを製造し、さうして支那に輸出して居る、然るに又亞米利加からも支那人に

向くやうな意匠圖案を考へ、ドシ、絹布及綿布の斯の如きものを製造し、是れを支那に送つて居ります、ところが又一方に於ては支那も油斷せぬ近來支那の内地に追々工業が発達しまして、殆んど外國製品に劣らぬやうなものを拵へ掛けて居ります、先般支那の團體が農商務省陳列館に参りました時に、私は夫等のことを研究する積りで、其の支那人と一緒に附いて廻りました、其時佛蘭西より支那に輸入して居る所の絹布と同じものを着て居た支那人がありますから、私は其の人に向つて「アナタは何うも洒落て居る、佛蘭西よりアナタの國へ輸入した絹布を纏ふて居られるやうだが、併しそれでは支那として餘り面白くないではないか」と言ふた、すると支那人の言ふには大變に違ひます、「イヤ是れは佛蘭西から來た品物に似せて、支那で拵へたものである、即ち佛蘭西品として賣つて居るものを着るのであるが、實は自分の國で拵へましたのです」と云ふことでありました、して見ると支那も中々進んで來たものであります、其の進んだ證據を御覽に入れば是の支那で拵へました莫大小です(實物を示す)此の莫大小を見ますれば中々良く出來て居る、今回の共進會に入木さんの製品なども出て居つて、

無論立派なものもござりまするが、又支那の方に於ても盛んに工業が發達しかつて来て、こんな立派なものが出來ます、併し私の考へでは少しく値が高くはないかと思ひますけれども、兎に角これだけのものが支那に産出しまして、斯の莫大小足袋の如く支那人に適當な足の寸法になつて居る、殊に支那の婦人に向つては適當な足先の細いものを拵へて居る、なか／＼油斷がならぬのである。つひ是れは最近の甚だ小さい出來事でありますが、常に我々の陳列館へ取引のことに就て、諸外國から種々のことを聞きに来る、其の中に何れの國であつたかは忘れましたが、便所の紙、即ちトイレット、ペーパーであります、其の便所の紙の帳面のやうなものがござりまする、それを我々の方に送つて来て、斯う云ふものが日本で出來るさうだが、之れを取引して見たい、何所が宜からうか、と云ふ照會が來た、ところが何う考へて見ても、其の紙が日本で出來たものでない、私が税關に居つた當時から何う云ふ紙は何所で出來ると云ふことは多少知つて居りますけれども、其の品物を見ると、何うしても日本の製品らしくない、併し表紙の圖案意匠と云ふものは日本のものである、して見ると是れは西洋の或國で拵へた

ものであると云ふことが分ります、ところが其の照會をして來た國では意匠圖案が日本のものである故、矢張りこれは日本で出來るものだらうと思つたものである、兎に角さう云ふやうに今日は便所の紙にまで關係を及ぼして來た、中々頭の方々らゐる事ではない、腰から下足元の方までも關係を及ぼすだらうと思ふ、斯うなつて來ると我々は一ツ大いに奮發をしなければならぬ。

外國では或國で出來るものと同じやうな性質の物品が緯度溫度地味の關係で如何にしても製造の出來ない場合には、學問と云ふえらゝい。一の機械を以て、それを拵へ出すと云ふ力を持つて居る、彼の人造藍もさうです、これは鑛物性のもので、から製造するもので、學問の力を以てやればさう云ふものからでも不思議に有効なものが出て來る、人造樟腦にしてもさうです、矢張り鑛物質のものから人造樟腦が出て來る、さうして香氣は同じやうなものである、即ち天然の樟腦と稍や異らぬ所のもが出て來て居る、さう云ふやうに學理が進んで來たのである、又現に人造生絲と云ふやうなものまで拵へ出した、西洋の各會社で盛んに人造生絲を拵へ出して居る、これは光澤があつて値が廉い、持ちの方になると第一強度が天然

生絲の百に對し三〇であり又水分の吸收が多いので弱ひ缺點もありません。此の問題は別として、兎に角同じやうなものが出來て居る、これは亞米利加へ獨逸から出して居る人造生絲と本當の生絲とで拵へました着物であります、(實物を示す)之れを拵へるだけなら問題なしだが日本には純生絲で織つた生絲と云ふものがござります、是れは八王子近邊で拵へるので之れを横濱の商館に居りまする亞米利加の婦人、或は神戸の西洋の婦人などが着て見ると、一向汚れが目立たぬものであるから、これは働さ着に宜いと云ふので流行を見た處が之れが北米に輸出され遂に亞米利加に於て流行を見るに至つた同時に夫れを獨逸が織成しさうして亞米利加へ輸出したらしい、即ち一方の織糸は人造生絲である故日本品に比すれば價格低廉である、さう云ふやうな風にして人造生絲の利用が案出された、即我が打撃である、詰りこれは學問の效果であると言はねばならぬ、さうして今日其の人造生絲は生絲の大產地たる本邦へ約四拾萬圓近くも這入つて來るやうになつた、併してこれは一方から云ふと絲の質が弱い、隨つて帶なごに利用しても甚だ弱いと云ふこともありますが、併し光澤は立派なも

のである、これは我々が生絲の産地と云ふ見地から見ると心配すべきである、斯う云ふやうな工合に學問と云ふことの研究が積みますると、日本の他に出來ないと思ふて居るものでも他の國で製造を始める故、此の點は餘程の注意をしなければならぬものであらうと思ふ。さう云ふ譯でありまして、英國でも亞米利加でも、此頃は日本の木綿縮に似たものが出來て居る、否似たものではない、本當のものである、實に更に上等の品が出來る譯である、先づ英國は第一に亞米利加から綿花を買ふ、即ち纖維の長い細い綿花を買ふ、次に伯刺爾留から上等の綿花を取る、さう云ふ好い纖維を持つて居る綿花から拵へる所の綿絲がある故、敢て木綿縮の製造は困難でないばかりか、勿論其の絲を以て拵へると何うしても其の出來たものが立派でなければならぬ、私が濠洲へ行つたときに「シドニー」市の兼松商店へ参りまして、英吉利で出來た木綿縮の反物を見ると、實に何でも言へぬほど膚觸りの工合が宜い、膚觸りの宜いと云ふことは又金といふ問題もありません、割合に値も廉いのである、是れも亦本邦に同様の商品が壹百萬圓以上輸出する上に於て心配すべき問題であらうと思ふ、それから亞米利

加で拵へる花筵、此の花筵は御承知の通り日本より参百萬圓以上の額が輸出されて居ます、ところが向ふに於て此頃は紙で以て拵へ始めた、即ち機械で以て紙を長く細く切り、それを又機械で以て「こより」にして編んだものである、さうして出来た所のものは非常に工合が宜い、少しも表面に不同が現はれない、若しも缺點と云ふものを挙げれば少し水が垂れると、ふくらむ缺點がある、之れを研究して假令水がたれても、ふくらまぬやうになると實に立派なものである、併しこれは何うしても色が褪め易い、と云つて日本のものも随分色が褪め易いから、此の點は五分五分であるかも知れぬが、兎に角「ファイバーマツチング」と言ふ有名な物が出来て居る本邦花筵當面の敵である、又此頃は亞米利加に「グラスマツト」と云ふ花筵がある、これも花筵のやうなものであつて、其の原料は野原に行つて草を採つて来る、それで拵へたものである、さう云ふものを拵へまして、他國から来る品物を防塵しやうと掛つて居る、夫れに就ては又日本の品川に居る寺島と云ふ人が、或草を探り、それを集めて同じやうなものを拵へ、又向ふへ出して競争して居りますが、斯う云ふ事に掛けては日本も非常に進んだものであります。

夫れから獨逸の漆器であります、此の獨逸の漆器と云ふはたゞ一寸見れば何でもない紙製漆器であるが、(實物を示す)紙も日本で造る板紙でなく「バルブ」を壓搾して巧みに拵へてある、之れを初めて賣り出す際には日本の品として賣るのが得策である故かう云ふ様な立派な日本の繪を畫いて賣り始めた、富士山其他日本の風景鳥居やら支那婦人のやうな日本婦人などが畫いてある、さて之れを使用して見ると中々工合が宜い、こわれ易くもなく、又軽くもあり、水が垂れてもふくらむ所がない、其上に熱い土瓶を乗せても膠が溶けてふくらむ恐れがない、これはボール紙を集めたものでない、たゞ一枚で出来て居る、一寸其の一端を切つて水に浸けて見ても少しもふくらんで来ない、兎に角一日二日では水氣を含んでふくらんで来ない、さう云ふ風に日本畫を附して賣り出し、さてもう眞價を認めて大丈夫だと云ふことになつて、此度は獨逸の意匠を附けて賣り始めたのです、斯う云ふやうな商畧を向ふではやつて居る、これは我々が別に悔しがるには及ばぬ、甚だ感服すべき價があるだらうと思ひます。(笑聲起る)

夫れで此度は意匠圖案の話してあるが元來日本の意匠圖案は何とも云へぬ好

い雅な所がある、即ち梅の花の模様とか鯉の模様とか、其他種々ござりまするが、これは決して外國に於て真似の出來ないものである、大丈夫だと思つて居りました、然るに西洋では日本の模様を巧にやるやうになつた、是れは北米「ロツグウ」ド製陶器であるが、(實物を示す)初めは北米では我々が西洋料理で喰ふ皿のやうなもの、即ちホテルで使ふ陶器より製造されなかつたが、一婦人が自分の國でも少し立派な陶器が出來なければならぬと云ふ考で、段々と研究をいたし、之れに日本の模様を附けて拵へ出した、それが今では立派なものになつて居る、一寸見ると日本の品物ではないかと思はれる位のものであります、又これは私が濠洲へ行つたときに買つて來た英國製の皿である(實物を示す)之れには純然たる鳳凰の模様が書いてある、又之れの水入れには牡丹が書いてあつて、松前と云ふ文字が書き附けてある、これは日本人の松前と云ふ人が向ふに行つて焼いたのでせうか、併し一寸意味な所がある、即ち純粹の日本の模様ではない、幾らか西洋風になつて居るが、さう云ふ風に意匠にしても、種々日本に模倣をする結果、段々日本製のものに似寄つて來る、これは甚だ心配なこととございませう。

す。

夫れで私はもう餘り長く申す必要がないと思ひますが、一寸申上たいのは模造方法の彼我異なる點であります、如何なる所が違ふかと云ふことは用途に依つて模造の工合、即ち製作を異にして居る、第一例とすれば是れは我象牙に細工した品に似せた瀬戸物人形である(實物を示す)象牙細工は實用品でないのは御承知の通りで、即ち遠くの方に据ゑて置いて眺めるので手に取つて飯を喰ふものでもない、手を洗ふものでもない、處で獨逸は斯う云ふ飾り物、即ち實用的でないものは、成るべく値段を廉く拵へたなら賣れると言ふ名案を絞つて、一寸見は眞擬の譯らぬ陶器で造つた、即ち日本では十圓も二十圓もするものでも、向ふでは二圓五十錢か三圓で造つた、又さう云ふもので事足れりである、實に我象牙細工の敵で今更日本で獨逸の眞似をして陶器で造つても致方ない、茲に又竹で編んだ如き筆立がある(實物を示す)是れは獨逸で紙で拵へたるもので、丁度日本の竹の筆筒に能く似て居る、之れを見ますと、實際に編んだやうに押形を附して居りました、種々模様が附いて居る、而も此の色の工合なさは甚だ好く出來て居る、

竹がなければ他の材料で造つて代りをする以上は實用的でない場合の話であるが、さて實用的商品の模造は如何かと言ふに前に申した盆のやうなものは随分堅牢に出来て居る、獨逸の漆器などは實際使へるだけの程度に拵へて居る、實際に使はぬものに向つては堅牢と云ふよりも値段を安く拵へやうと云ふことを旨として居るが、實際に使ふものになれば外見が悪くつても堅牢に拵へると云ふことをやつて居るらしい、これが日本とは少しく異つて居りはせぬかと思はれる、尤も悉皆とは云ひませぬが、日本のは實用的のものにして實際に使はぬものが多い、殊に日本の雜貨と云つても皆ではありませぬが、或雜貨を見ますると、何うも日用に適する所のものでないものが多い、又必ず必用だと云ふやうなものが少ない換言すればあつても無くつても足りる物が多い、それで清國其他の國に行きまして、日本の雜貨と云ふと、直ぐに廉物のやうに考へられると云ふ一の代名詞になつて居る、これは甚だ残念である、此の實用と云ふことに就て斯う云ふ例がある、昨年のごとです、新嘉坡に居られる亞米利加の領事から、本國の方に報告をせられた報告を見ますると、歐米から新嘉坡及び馬來半島近邊

に貨物と共に鐵力の罐が八拾萬圓ばかり輸入されて居る、其の罐が空罐になると之れが大變に實用的の品物となつて居る、即ち石油の空罐は水を容れるとか或はポツ／＼孔を穿ち篩にするとか或は鍋として飯を焚くとか、或は小さい罐なら水呑にするとか、中には又錢入にして腰に提げて歩く者もある、マサカ私のごとき「フロクコート」で鐵力の錢入れ罐は提げられませぬけれども、兎に角實用的のものになつて居る、其形狀意匠のみ美である、破損の多い實用品より遙かに増しである、然るに日本の雜貨に就ては昨日野間技師から言はれたかも知れませぬが、實にこわれ易い、夫れから又意匠考案に餘り變化がない、千篇一律である、先言つて見れば中には先祖傳來の技術を何時までも其儘やつて居る、これは一方から云へば國粹保存で好い事もあるけれども、又一方の貿易と云ふ點から云へば餘程考へなければならぬ問題であらうと思ふ、詰り同じ品物では飽が來ますから何うしても變化がなければならぬ、此所の湊川踊を見ましても、舞臺に春夏秋冬と云ふやうに變化がある即ち四季に對し背景が變つて來る、然るに春に成ても冬になつても踊り女の衣服が變らぬも同然だと思ふ、せめて肉袒はだかに

でもなつて欲しい(喝采)實に貿易と云ふことに就ても亦其の考へがなければならぬ、私は貿易品に時代と共に此の變化と云ふことをやつてもらいたい、それから又關稅に對する所の考へがなければならぬ、向ふの國へ之れを遣ればどの位の關稅が掛るか、或は此の品物の容積は何うだ、或は重量は何うだ、斯う云ふものを送れば關稅其他運賃の關係が何うなるかと云ふことを考へなければならぬ、然るにさう云ふ考を持たずして、容積の大きなものでも重量の多いものでも何でも構はずに無暗に遣る者がある、夫れも遣らぬ事がならぬものならば仕方がないけれども、兎に角さう云ふことに就ても注意を拂ふとが肝要であります。之れを要するに總て貿易品に就ては向ふの國情に適合することを考へなければなりませぬ、それに就ても亦斯う云ふ例があります、英吉利が印度へ輸入して居るもの、中に茹玉子ワヂを入れる物即ちコップでござります、これは其のコップに玉子を載せて、其の一端を破り、スプーンで中味を掬ふて喰ふものである、之の商品を長い間印度へ輸出して居りましたけれども、如何にも賣行が少ない、英吉利でもこれは何う云ふ譯であらうかと云ふて考へて居りました、ところが其後

獨逸から其の茹玉子を入れるコップを輸入した、夫れが盛んに賣れ出したのである、第一に値段が廉い、其上に工合が宜いと云ふので盛んに賣れ出した、これは何う云ふ譯であるかと云ふと、獨逸人が印度の玉子を研究したのである、獨逸人の商買上機敏なことは此の點にある、玉子を研究したと云ふのは印度のやうな熱帶國の玉子は形狀が小さい、小さい玉子だから是れまで英吉利から送つたやうなコップに入れると下に落ちてしまふ、上から破らうと云つても破れませぬ、矢張り玉子はコップの中に入れても少しは頭を出して居らなければならぬ、獨逸は此點に氣が注いで、小さいコップを持つて來て宛がつた、たゞ玉子の形を研究すれば宜いのです、獨逸人は其所に考へを著けた結果、商業上の勝利者となつた譯であります、斯う云ふやうな工合であるから、苟も貿易業者たるものは對手國の嗜好なり事情なりを能く研究しなければならぬ。

夫らから又考案と云ふことも極めて必要である、此の考案と云ふことに就て申し上げたいのは、これは見た所で平凡な玩具である(實物を示す)此の玩具に就て我々が感心をした、これは籠の中に鳥が居りますが、此の籠の戸を開けると自然

に鳥が籠より半身を出し啼くやうになつて居る、即ち戸をわけて閉ると鳥が中央の位地に戻る、同時に鳥の下にある笛袋が緊縮される、戸を開くと笛袋が脹んで空気を壓迫して笛が鳴るやうな装置になつて居ります、此の通りです………是等の考案と云ふものは物理的で單純な装置で實に面白い、夫れから又茲に自動車(實物を示す)これは我々が乗ることく此の螺線を廻して車を馳らしても、決して行路を常に等ふせぬ、一方の道にはばかりは行かぬのである、或は曲線を畫き或は直線を畫く而も曲つても同じやうな曲り方をして居らない、其の行く方角が時々異つて居る、さうして又これが動くと同時に笛が附いてある、此の笛が鳥の笛袋に於けるが如く吹子式のものであつて、それが車輪の回轉により空氣の壓迫を來し時々警笛を鳴らすのです、之れなどを観ると日本式の形狀のみなる外形式玩具の考へを脱けて居る、これは學問的に研究した結果である、斯う云ふ風に進んだ所の頭腦を以て玩具を拵へて居る、今の籠の鳥なり此の自動車の如きは一番最新なる玩具と言ふて不可なしと思ふ、もう一つ考案に就て感心をしたのは、私が濠洲で或る日本人の使つて居りました仕事の鉄で

ざります、それは西洋式の鉄であるが、其の鉄の柄の方の下に磁石が附いて居つて針の落ちた場合には其の磁石に吸ひ着くやうになつて居る、兎に角幾らか書物を讀まなくちやア出來ぬ考案である、即ち學問の力が玩具にまで及ぼして來たので、日本人としては斯う云ふことにも注意をしなければならぬ。

又考案に就て御注意を願ひたいのは日本人は狹義に物を考へるのである所謂遠慮勝であるので最う少し大膽にしてみたい、私は一寸履物に就て言ひたいために縮句、錫蘭の履物を農商務省から取寄せた(實物を示す)此の履物に就て言ひたいと云ふのは、元來日本の障子と云ふものは今日紙で以て張られて居るけれども、段々硝子に變つて來る、一方に於ては日本建の家が堂々たる練瓦造り或は鐵骨になつて來る、家でも何でも便利の宜いものが出來れば自然其の宜い方に變つて來るのである、衣服でも洋服が便利である故段々洋服になつて來る、此の風俗の變化と云ふことを能く考へなければならぬ、夫れに就て日本の貿易業者たるものは、我貿易品を以て此方から先方の風俗習慣を變化せしむる様に仕掛けなければならぬ、日本人の勢力を以て向ふへ其の勢力を及ぼして行きた

い、此の履物に就て見るに、我が履物も同様足の指を利用して居る點より想像するに、我履物も縮旬及錫蘭に流行させることは絶對的に六つかしいとは思へぬ、私が縮旬に行つたときに其の土地の人を見ると、斯の天鷲絨張表の下駄を穿ひて居るのを見た又錫蘭でも斯くの如き革製の、下駄を穿てるのを見た丁度日本の下駄に能く似た、足の指を利用したもので、若しもう少し日本人が此の下駄に考案を施して値を廉くして送つて見たら何うかと思ふ、馬尼拉へ行つて見ると日傘をさし、紺の衣類を着て、突掛草履を穿き、又は壘附の下駄を穿つて居る日本人も居るが、是れは馬尼刺人は靴を穿いて居るから下駄の趣味を解さしむるは困難だが、縮旬の方には既に日本の下駄のやうなものを穿いて居るのに、熱い國で下駄が適當して居るにより縮旬人に日本の下駄でも穿かせることが或は出來やうと思ふ。

先づ以上述べたやうなものであります、詰り今日世界の趨勢より考へますと、日本は貿易のやり方が少々違つて居るやうである、何故かと云へば貿易と云ふものは第一に人口の多い所を目當としなければならぬ、歐米各國の如きは三億

の印度、四億の支那、斯う云ふ人口の一番に多い國に向つて貿易上力を盡して居る所謂人口を第一の頼みにして居るのである、第二は自分の國よりも程度の低い國を對手に取らなければならぬ、假令品物の出來が悪くつても賣り易いから斯う云ふ國を擇ぶ、尤も粗製濫造と云ふことは可けないが、成るべく値を廉くして成るべく實用的のものを拵へなければならぬけれども、兎に角歐米各國の如きはさう云ふ風に程度の低い所を擇んで居る、さうして其の賣る所の品物は何うだと云ふと、一個に付て一圓のものを賣るよりも十個に付て一圓のものを賣ると云ふ方に傾いて居る、これは大勢がさうなつて居るらしい、日本も先程申し上げた通り兎に角九億萬圓以上の貿易をするやうな場合になつたのでありますから、何うか此の機會を逸せず、製造家にせよ、或は販賣者にせよ、或る品物に就ては値の廉いばかりが必要ではないが、何うか實用的のものを出すやうに、それを買ふた者が無駄にならぬやうなものを出すやうに注意をせらるゝ様に願ひたい、殊に此の神戸は我國貿易の必要なる關門でありますから、皆擧つて我國の輸出額の増加をするやうに、充分の御盡力を願ひたいと思ひます。

私は前に申し上げました通り、今日は遽にお話しをするやうな事になりまして、たので、充分のお話しが出来ませぬのは甚だ遺憾でございますが、此後また機会を得まして、充分のことを申し上げる場合もあらうかと思ひます、今日はこれで終ることに致します。(拍手大喝采)

貿易生産品共進會講演集終

明治四十四年八月八日印刷
明治四十四年八月十四日發行

編纂兼發行者 川 嶋 右 次

貿易製産品共進會主事

印刷者 菅 間 徳 次 郎

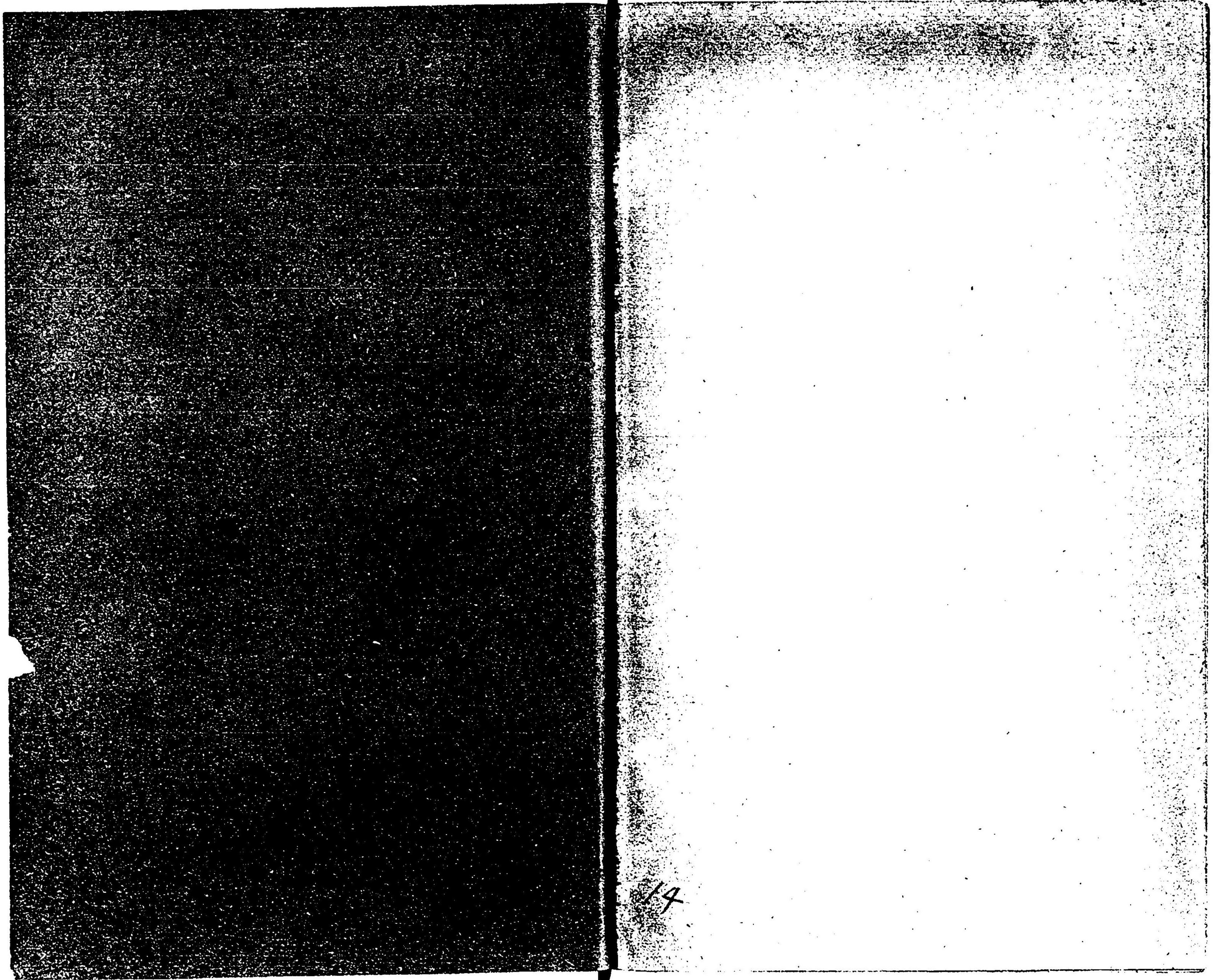
神戸市元町一丁目廿五番屋敷

印刷所 福音印刷合資會社神戸支店

神戸市元町一丁目廿五番屋敷

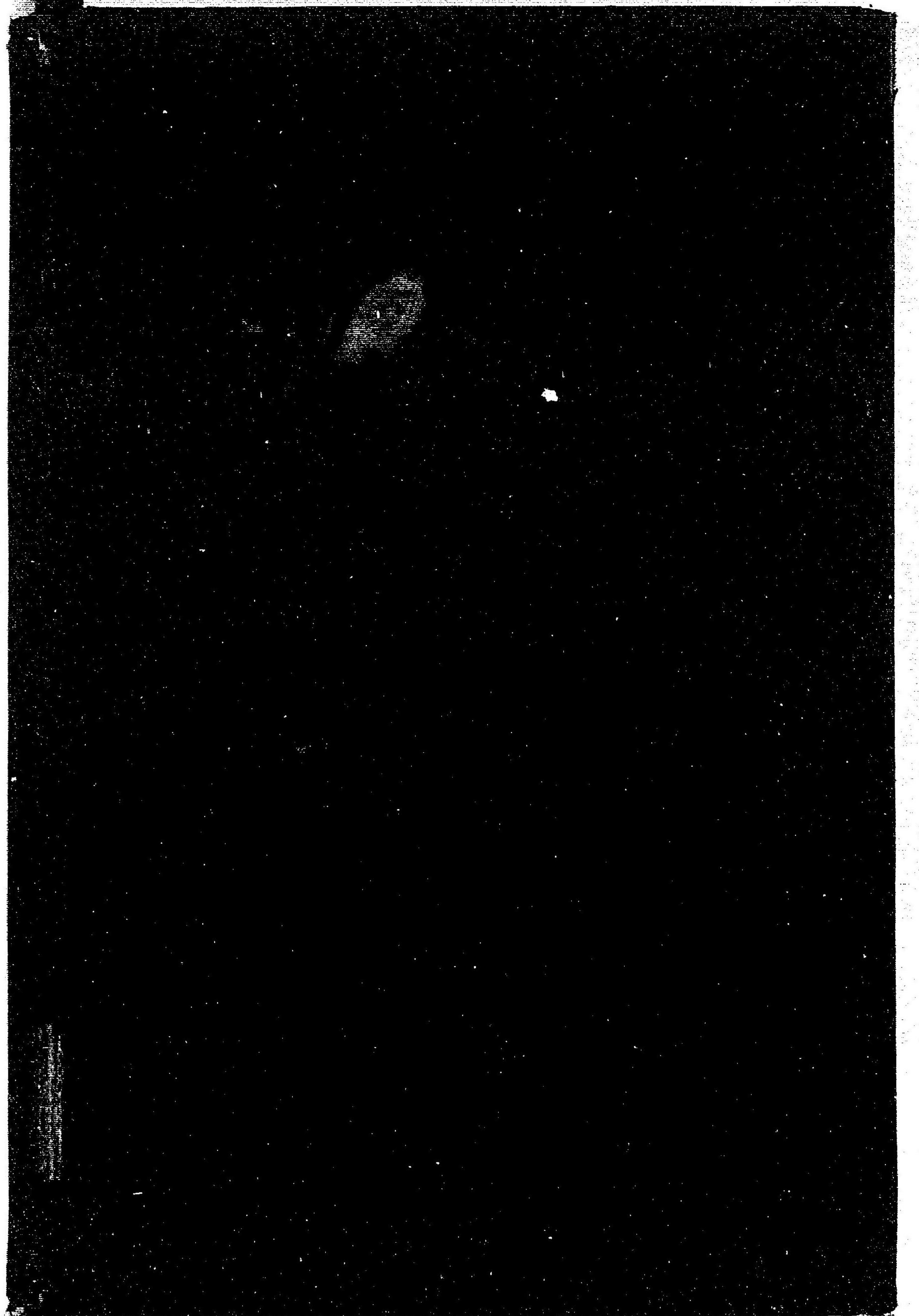
神戸市役所内

發行所 貿易製産品共進會



14

586
586



327
536

065943-000-3

327-536

貿易製産品共進会講演集

川嶋 右次 / 編

M44.8

CDA-0287

